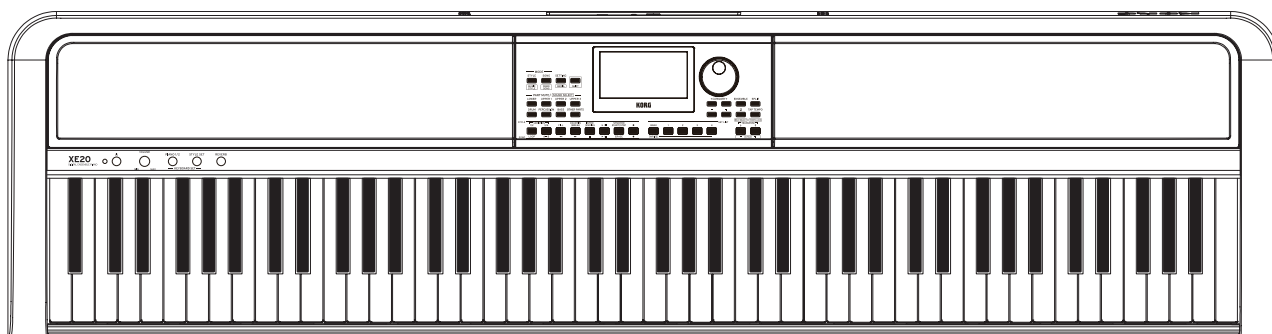


XE20/XE20SP

DIGITAL ENSEMBLE PIANO

取扱説明書



KORG

目次

主な特長	3	外部機器との接続	30
各部の名称	4	オーディオ・プレーヤーを接続する.....	30
フロント・パネル.....	4	パワード・モニター・スピーカーを接続する.....	30
リア・パネル.....	4	コンピューターを接続する.....	31
底面.....	4	付録	32
コントロール・パネル.....	5	ソフトウェアのバージョンの確認.....	32
ディスプレイ.....	6	工場出荷時の状態に戻す.....	32
演奏の準備をする	7	エクスペリション・ペダルのキャリブレーション.....	32
ACアダプターを使用する.....	7	故障とお思いになる前に.....	32
電源を入れる、切る.....	7	コード認識一覧.....	34
音量を調節する.....	7	仕様	35
譜面立てを使うときは.....	7	MIDIインプリメンテーション・チャート	36
ヘッドホンを使うときは.....	7		
ペダルを使うときは.....	8		
演奏を始める前に ~自動伴奏機能って何?~	9		
自動伴奏機能とは?.....	9		
基本操作	12		
モードについて.....	12		
その他の機能について.....	12		
音の選び方、値の変え方.....	12		
弾いてみよう(スタイル・モード)	13		
グランド・ピアノの音を選ぶ.....	13		
スタイル・セットの音を選ぶ.....	13		
パートをミュートする、サウンドを変える.....	13		
セット・リストを選ぶ.....	14		
左右の音を変える(スプリット).....	14		
メトロノームに合わせて弾く.....	15		
音の調やオクターブを設定する.....	16		
演奏に効果をつける.....	16		
自動伴奏(スタイル・モード)	18		
自動伴奏に合わせて弾く.....	18		
自動伴奏に変化をつける.....	19		
ミュージック・スタイルを選んで演奏する.....	20		
セット・リストを保存する(WRITE).....	21		
演奏を録音する.....	21		
ソング・モード	22		
デモ・ソングを聴く.....	22		
ソングと一緒に演奏する.....	22		
いろいろな方法で再生する.....	22		
ソングを編集する.....	23		
セッティング機能	25		
基本的な使い方.....	25		
主なセッティング機能.....	25		
セッティング機能一覧.....	26		
メディア機能	28		
USBメモリーを接続する、取り外す.....	28		
基本的な使い方.....	28		
メディア機能一覧.....	29		

このたびはコルグ・デジタル・アンサンブル・ピアノ XE20/ XE20SPをお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。

取扱説明書について

本機の取扱説明書は以下のように構成されています。

- ・ クイック・スタート・ガイド(印刷物)
- ・ 取扱説明書(PDF)(本書)
- ・ ボイス・ネーム・リスト(PDF)
- ・ スタンド・アセンブリー・ガイド(印刷物、XE20SPのみ)

クイック・スタート・ガイド(冊子)

はじめにお読みください。本機の基本的な操作のしかたなどを説明しています。

取扱説明書(PDF)(本書)

本機の詳細な機能の使い方を説明しています。

Voice Name List(ボイス・ネーム・リスト)(PDF)

本機のスタイル、デモ・ソングなどのリストです。

スタンド・アセンブリー・ガイド(印刷物、XE20SPのみ)

XE20SPのスタンドの組み立て方を説明しています。

PDFは、以下よりダウンロードしてください。

www.korg.com

■ 取扱説明書の表記

マーク 、Note、Tip

これらのマークは、順番に、使用上の注意、ノート、アドバイスを表しています。

■ ディスプレイ表示

取扱説明書に記載されている各種のパラメーターの数値などは表示の一例ですので、本体のディスプレイの表示と必ずしも一致しない場合があります。

主な特長

高品質なピアノ音色

ジャーマン・ピアノ音色をはじめとした、コルグ独自の高品質なグランド・ピアノ音色を搭載。さまざまな音色の中から、ボタン1つですぐにグランド・ピアノの音で弾くことができます。

..... 13ページ

いろいろな音で弾く

ピアノやバイオリン、サクソ、ドラムなどの楽器音だけでなく、さまざまな音で演奏できます。

..... 13ページ



スタイル(自動伴奏)に合わせて弾く

スタイルとはバックバンド、あるいはリズム伴奏のようなもので、さまざまなジャンルのスタイルを選択できます。左手でコードを弾きながら、右手でメロディーを一緒に弾いてみてください。

..... 18ページ



USBメモリーの音源を再生する

USBメモリー内のMP3、WAVE、SMFファイルの本機で鳴らすことができます。好みの音を選んで一緒に弾いて楽しんでみてください。

..... 22ページ



外部機器とつないでオーディオを再生する

MP3プレーヤーやスマートフォンといったモバイル機器、コンピューターなどの外部機器のオーディオ再生音を、本機の内蔵スピーカーで鳴らすことができます。

..... 30ページ

音に効果を付ける(エフェクト)

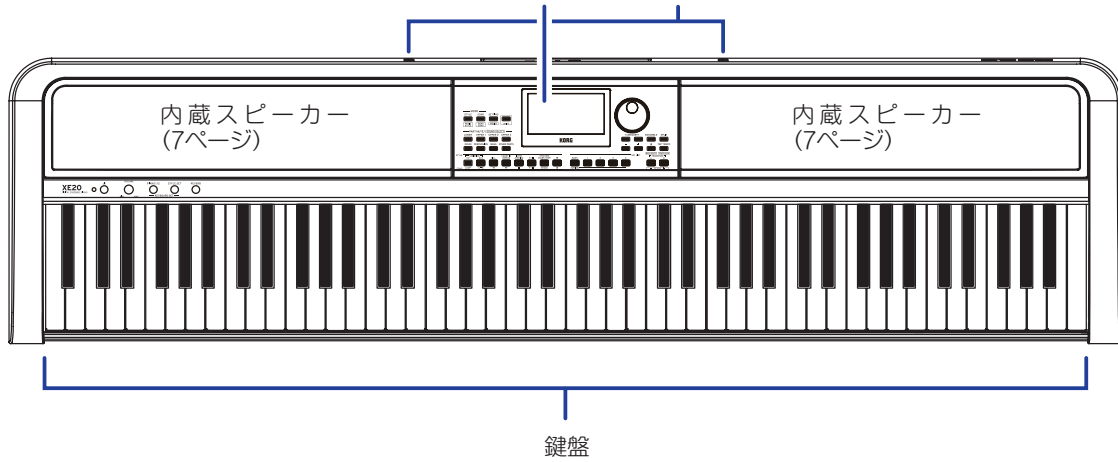
音を歪ませたり残響音を付けたりして、違う印象の聴こえ方にするることができます。

..... 16ページ

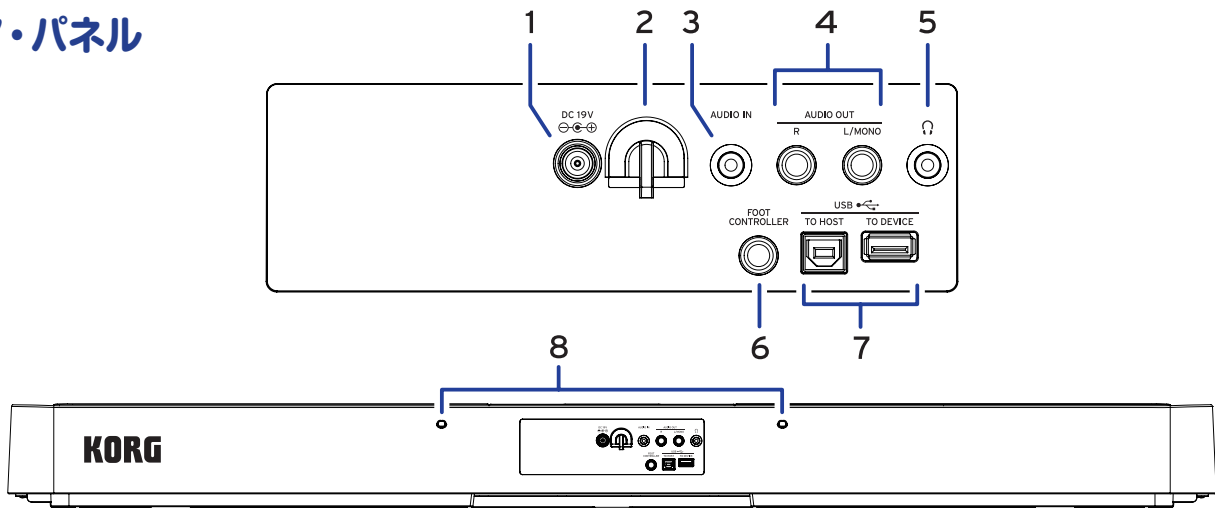
各部の名称

フロント・パネル

ディスプレイ(6ページ) 譜面立て用穴(7ページ)

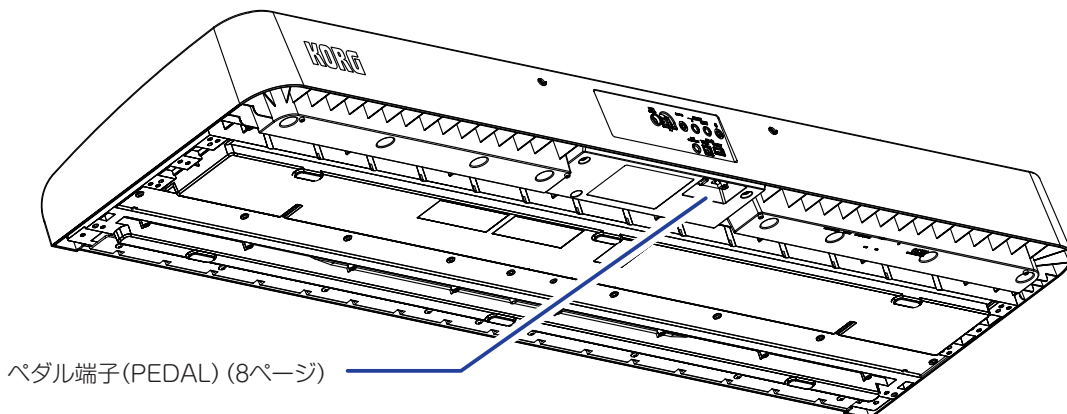


リア・パネル



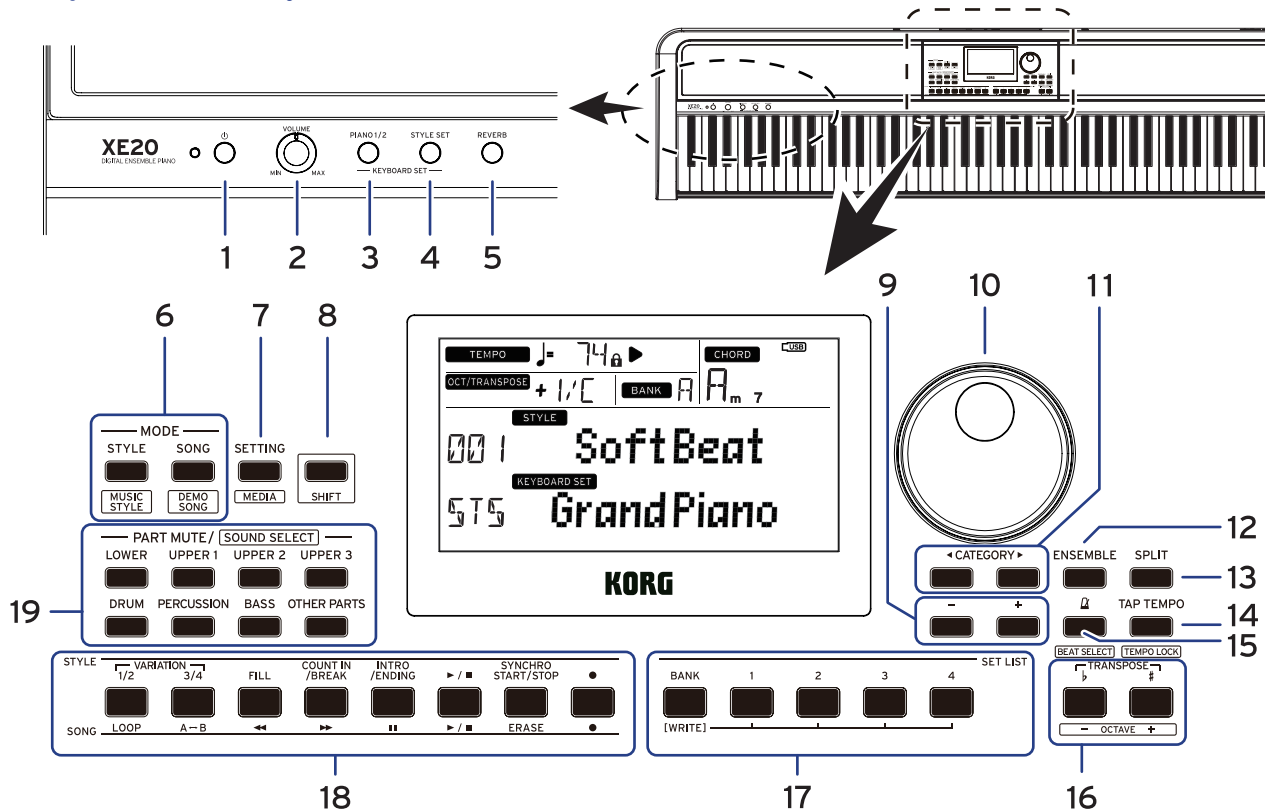
- | | |
|--|---|
| 1. DC 19V端子 (⊖ ⊕)7ページ | 5. ヘッドホン端子 (Ω).....7ページ |
| 2. コード・フック7ページ | 6. フット・コントローラー端子
(FOOT CONTROLLER)8ページ |
| 3. オーディオ・イン端子
(AUDIO IN)30ページ | 7. USB TO DEVICE端子、USB TO HOST端子
()28、31ページ |
| 4. オーディオ・アウト L/MONO、R端子
(AUDIO OUT L/MONO、R)30ページ | 8. 譜面立て用穴7ページ |

底面



ペダル端子 (PEDAL) (8ページ)

コントロール・パネル



- | | |
|--|---|
| <p>1. 電源ボタン (⏻) 7ページ</p> <p>2. ボリューム・ノブ (VOLUME) 7ページ</p> <p>3. ピアノ1/2 ボタン (PIANO1/2) 13ページ</p> <p>4. スタイル・セット・ボタン (STYLE SET) 13ページ</p> <p>5. リバーブ・ボタン (REVERB) 16ページ</p> <p>6. モード・セクション (MODE) 12ページ
 スタイル/[ミュージック・スタイル]ボタン
 (STYLE/[MUSIC STYLE]) 13、20ページ
 ソング/[デモ・ソング]ボタン
 (SONG/[DEMO SONG]) 22ページ</p> <p>7. セッティング/[メディア]ボタン
 (SETTING/[MEDIA]) 25、28ページ</p> <p>8. [シフト]ボタン (SHIFT)
 ボタンの白枠内に書かれている機能を設定するときに、[シフト]ボタンを押しながら、それらのボタンを押します。</p> | <p>9. +ボタン、-ボタン 12ページ</p> <p>10. ダイアル 12ページ</p> <p>11. カテゴリー・ボタン ◀、▶
 (CATEGORY) 12ページ</p> <p>12. アンサンブル・ボタン
 (ENSEMBLE) 16ページ</p> <p>13. スプリット・ボタン
 (SPLIT) 14ページ</p> <p>14. タップ・テンポ/[テンポ・ロック]ボタン
 (TAP TEMPO/(TEMPO LOCK)) 15ページ</p> <p>15. (メトロノーム)/[ビート・セレクト]ボタン
 (/[BEAT SELECT]) 15ページ</p> <p>16. トランスポーズ ♭、#/[オクターブ -、+]ボタン
 (TRANPOSE/(OCTAVE)) 16ページ</p> <p>17. セット・リスト・セクション (SET LIST) 14、21ページ
 ・バンク/ライト・ボタン (BANK/WRITE)
 ・1～4ボタン</p> <p>18. スタイル/ソング・セクション (STYLE, SONG)
 スタイル・セクション 18ページ
 ・バリエーション1/2、3/4ボタン (VARIATION 1/2, 3/4)
 ・フィル・ボタン (FILL)
 ・カウント・イン/ブレイク・ボタン (COUNT IN/BREAK)
 ・イントロ/エンディング・ボタン (INTRO/ENDING)
 ・スタート/ストップ・ボタン (▶/■)
 ・シンクロ・スタート/ストップ・ボタン (SYNCHRO START/STOP)
 ・録音ボタン (●)</p> <p>ソング・セクション 22ページ
 ・ループ・ボタン (LOOP)
 ・A↔Bボタン (A↔B)
 ・早戻しボタン (◀◀)
 ・早送りボタン (▶▶)
 ・一時停止ボタン ()
 ・スタート/ストップ・ボタン (▶/■)
 ・イレース・ボタン (ERASE)
 ・録音ボタン (●)</p> |
|--|---|



ボタンを押しながら、別のボタンを押したり
 ダイアルを回したりすることがあります。
 このときに、このマークを使います。

19. パート・ミュート/[サウンド・セレクト]セクション

(PART MUTE/[SOUND SELECT]) 13、20ページ

鍵盤パート..... 13ページ

- ・ローワー・ボタン (LOWER)
- ・アッパー 1ボタン (UPPER 1)
- ・アッパー 2ボタン (UPPER 2)
- ・アッパー 3ボタン (UPPER 3)

伴奏パート..... 18ページ

- ・ドラム・ボタン (DRUM)
- ・パーカッション・ボタン (PERCUSSION)
- ・ベース・ボタン (BASS)
- ・アザー・パーツ・ボタン (OTHER PARTS)

ディスプレイ

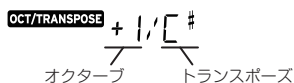
TEMPO : スタイルまたはソングのテンポを表示します。

: スタイルまたはソングのビート(拍)を点灯表示します。

テンポ・ロック・マーク
(15ページ)
テンポを固定したときに表示します。

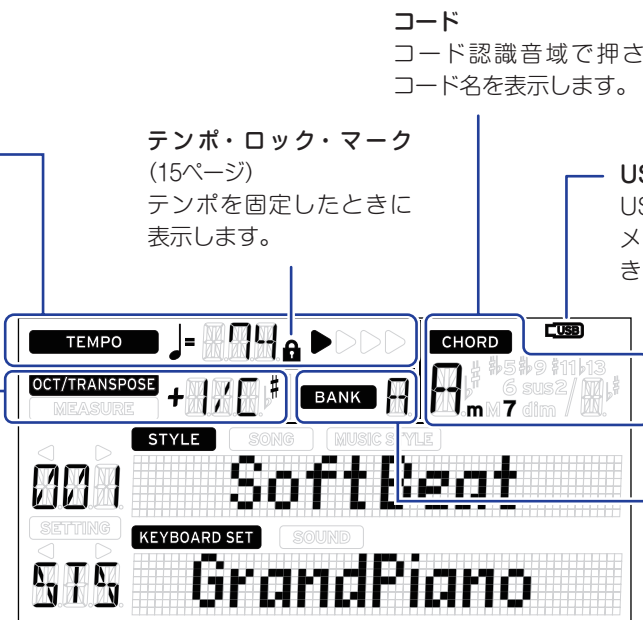
USBマーク
USB TO DEVICE端子にUSBメモリーが接続されているときに表示します。

OCT/TRANPOSE : スタイルまたはソングが停止しているときに表示します。右にオクターブとトランスポーズの状態が表示されます。



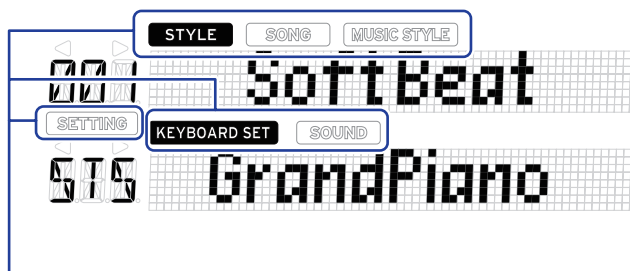
MEASURE : スタイルまたはソングを再生しているときに表示します。

右に現在の小節位置、または残りの小節数が表示されます。



コード
コード認識音域で押さえたコード名を表示します。

バンク
現在選ばれているセット・リストのバンクを表示します。



これらは、現在のモードや機能を表示します。また、表示が点滅しているときは、それらが操作の対象となっていることを示します。

STYLE : スタイル・モード時に表示されます。下にスタイル名と番号が表示されます。

SONG : ソング・モード時に表示されます。下にソング名と番号が表示されます。

MUSIC STYLE : ミュージック・スタイル選択時に表示されます。下にミュージック・スタイル名と番号が表示されます。

KEYBOARD SET : スタイル・モード、ソング・モード時に表示されます。下にスタイルやソングで使用されている、キーボード・セット名が表示されます。

SOUND : キーボード・セットで使用している、各パートのサウンド選択時に表示されます。下にサウンド名と番号が表示されます。

SETTING : セッティング機能時に表示されます。設定するパラメーター名と番号、値などが表示されます。

演奏の準備をする

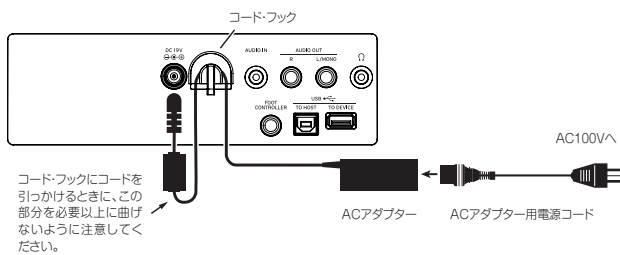
XE20SPはペダル・ユニット付き専用スタンドを付属しています。スタンドを組み立ててから、以下の手順で準備してください。

ACアダプターを使用する

1. 本機の電源が切れていることを確認します。
2. 付属のACアダプターのDCプラグを、リア・パネルにあるDC 19V端子に接続します。

⚠ 必ず付属のACアダプターをお使いください。他のACアダプターを使用した場合、故障の原因となります。

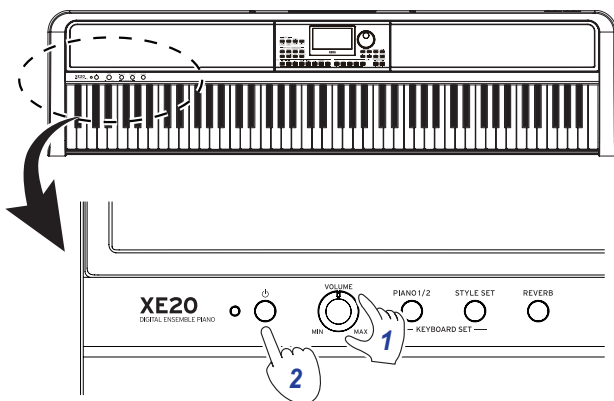
ACアダプターのコードをコード・フックに引っかけてください。コードをフックから外すときは、無理に引っ張らないでください。



3. ACアダプターのプラグを電源コンセントに接続します。
⚠ 電源は必ずAC100Vを使用してください。

電源を入れる、切る

1. 本機のボリューム・ノブを左へ回して、音量を最小にします。



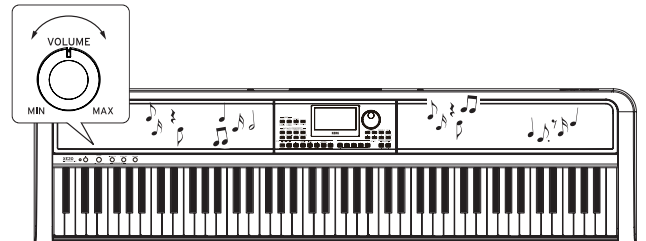
2. 電源ボタンを押して電源を入れます。
電源を切るときは、ディスプレイに「Power Off」と表示されるまで電源ボタンを押し続けます。

Note: 本機は、何も操作しないまま一定時間が経過すると、自動的に電源が切れるように設定されています(オート・パワー・オフ機能)。

工場出荷時は30分に設定されています。この設定を変更することができます(25ページの「オート・パワー・オフ機能を変更する」参照)。

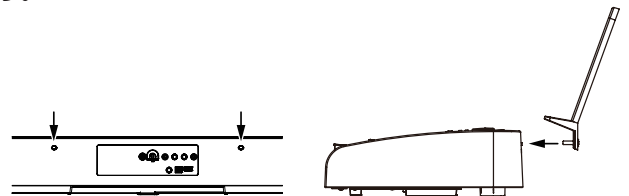
音量を調節する

- フロント・パネルのボリューム・ノブを回して、適度な音量に調節します。
ボリューム・ノブは、内蔵スピーカー、ヘッドホン端子(Ω)、オーディオ・アウト端子からの音量を設定します。



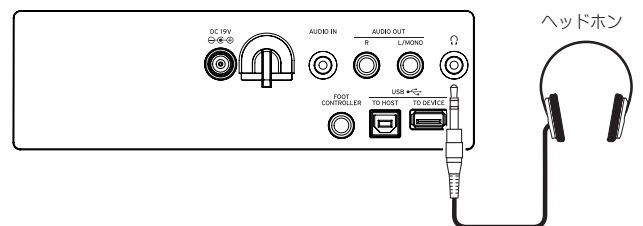
譜面立てを使うときは

リア・パネルの譜面立て用穴2つに、付属の譜面立てを取り付けます。



ヘッドホンを使うときは

- リア・パネルのヘッドホン端子に、市販のヘッドホンのステレオ・ミニ・プラグを接続します。



Note: ヘッドホン端子にプラグを接続すると、内蔵スピーカーから音が鳴らなくなります(オーディオ・アウト端子からは出力されます)。

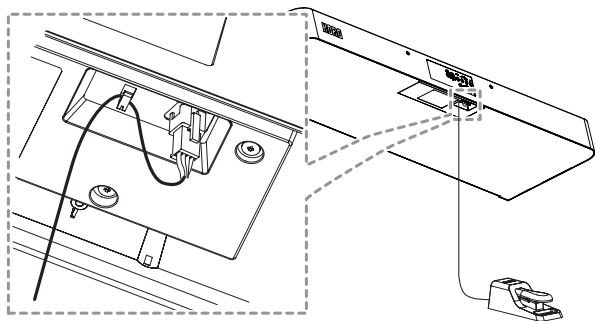
⚠ ヘッドホンを大音量で長時間ご使用になると聴覚障害の原因になることがあります。音量を上げすぎないように十分ご注意ください。

ペダルを使うときは

リア・パネルのフット・コントローラー端子や底面のペダル端子にペダルを接続してダンパー・ペダルとして使用したり、音量をコントロールしたりすることができます。

接続したペダルに合わせて、セッティング機能でペダルの設定を行います(25ページの「ペダルの極性を変更する」、25ページの「ペダルの機能を変更する」参照)。

- XE20: 付属のダンパー・ペダル、または別売のペダル・ユニットPU-2を使う場合
- XE20SP: 付属のスタンドのペダル・ユニットを使う場合
底面のPEDAL端子に接続します。

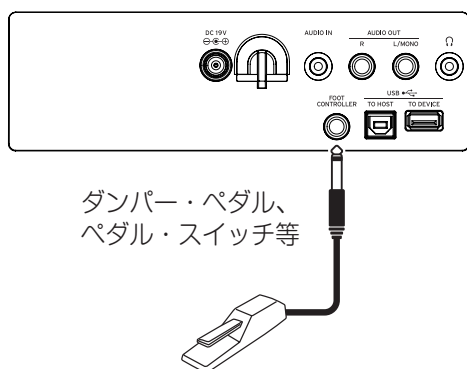


Tip: ペダル・ユニット(XE20SP付属品、または別売のPU-2)は、ジャーマン・ピアノ、イタリー・ピアノ音色では、ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。それ以外の音色ではダンパー・スイッチとして機能します。ペダルを踏んでいる間は鍵盤から指を離しても音を持続させることができます。

Note: ロワー・パートにはダンパー効果はかかりません。

Tip: ペダル・ユニット(XE20SP付属品、または別売のPU-2)では、ソステヌートはジャーマン・ピアノ、イタリー・ピアノ音色のみ効果が掛かります。

- XE20, XE20SP: 別売のDS-1H(ダンパー・ペダル)、PS-1またはPS-3(ペダル・スイッチ)を使う場合
リア・パネルのフット・コントローラー端子に接続します。



ダンパー・ペダル、
ペダル・スイッチ等

Tip: ダンパー・ペダルDS-1Hは、ジャーマン・ピアノ、イタリー・ピアノ音色では、ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。それ以外の音色ではダンパー・スイッチとして機能します。ペダルを踏んでいる間は鍵盤から指を離しても音を持続させることができます。

Note: ロワー・パートにはダンパー効果はかかりません。

- コルグEXP-2フット・コントローラーを接続すると、鍵盤パート(13ページの「スタイル・セットの音を選ぶ」参照)の音量をコントロールできます。

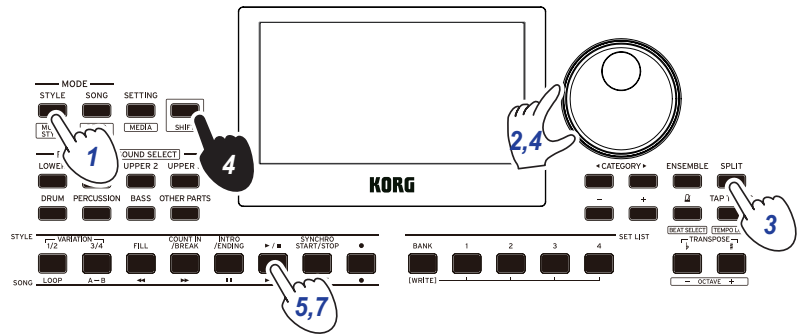
演奏を始める前に ~自動伴奏機能って何?~

自動伴奏機能とは?

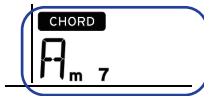
自動伴奏機能とは、左手(伴奏パート)でコードを弾くと、そのコードに合わせた伴奏を自動的につけてくれる機能です。

1. 伴奏の演奏方法

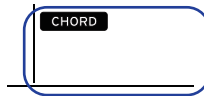
1. スタイル/[ミュージック・スタイル]ボタンを押します。
2. ダイヤルを回してスタイルを選びます。
ここでは、「209:Jazz Brush」を選びます。
3. スプリット・ボタンが消灯しているときは、ボタンを押してスプリットをオンにします。
スプリットとは?⇒鍵盤を、コードを弾く領域と、メロディ・ラインを弾く領域の2つの領域に分ける機能です。
4. [シフト]ボタンを押しながらダイヤルを回して、テンポを100にします。



5. スタート/ストップ・ボタンを押します。
リズムが再生されます。
※すでにコードが認識されている場合は、認識されたコードに合わせた伴奏が再生されます。



コードが認識されている場合



コードが認識されていない場合

6. 下の楽譜を左手で弾いてみましょう。弾いたコードにあわせた伴奏が再生されます。

8^b

8^b

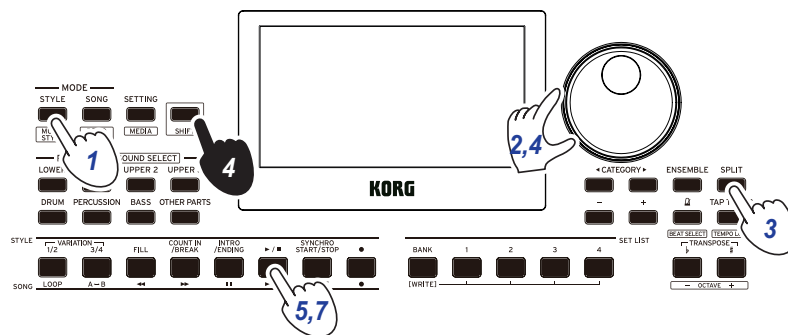
8^b

7. 再生を止めるにはスタート/ストップ・ボタンを押します。

2. メロディ・ラインを加えた演奏

伴奏に合わせてメロディ・ラインを弾いてみましょう。

1. スタイル/[ミュージック・スタイル]ボタンを押します。
2. ダイヤルを回してスタイルを選びます。
ここでは、「209:Jazz Brush」を選びます。
3. スプリット・ボタンが消灯しているときは、ボタンを押してスプリットをオンにします。
4. [シフト]ボタンを押しながらダイヤルを回して、テンポを100にします。
5. スタート/ストップ・ボタンを押します。
リズムが再生されます。
※すでにコードが認識されている場合は、認識されたコードに合わせた伴奏が再生されます。
6. 下の楽譜を弾いてみましょう。



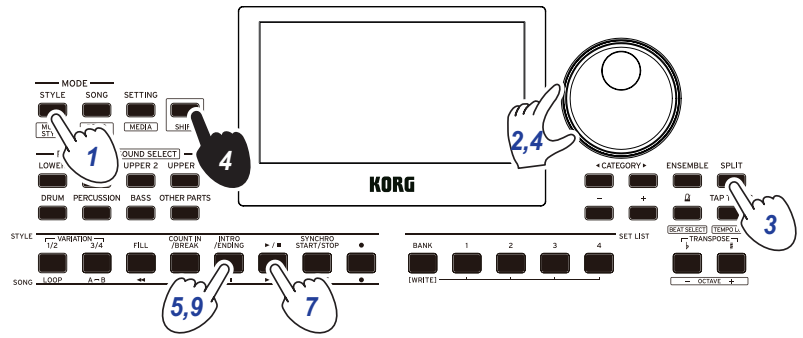
Three systems of musical notation are shown, each consisting of a treble clef staff and a bass clef staff. The bass clef staff includes chord symbols (C, F, C, G, C, F, C, G) and an 8th octave line. The treble clef staff contains a melodic line in 4/4 time.


7. 再生を止めるにはスタート/ストップ・ボタンを押します。

3. 曲のイントロとエンディングをつける

イントロとエンディングをつけて、曲を仕上げましょう。

1. スタイル/[ミュージック・スタイル]ボタンを押します。
2. ダイヤルを回してスタイルを選びます。
ここでは、「209:Jazz Brush」を選びます。
3. スプリット・ボタンが消灯しているときは、ボタンを押してスプリットをオンにします。
4. [シフト]ボタンを押しながらダイヤルを回して、テンポを100にします。
5. イントロ・エンディング・ボタンを押します。



6. 最初のコードを弾いて、コードを認識させます。

7. スタート/ストップ・ボタンを押します。
 イントロが再生されます。イントロが終わるまでの小節数がディスプレイに表示されます。
 小節数を確認しながら、弾き始めるタイミングを待ちます。
 イントロに合わせてコードを弾き、コードを変化させることもできます。
8. イントロが終わったら演奏を始めます。
9. 演奏が終わったらイントロ/エンディング・ボタンを押します。
 エンディングが再生され、自動的に曲が終了します。

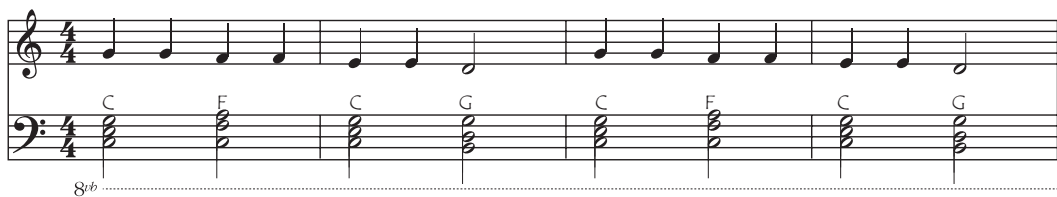
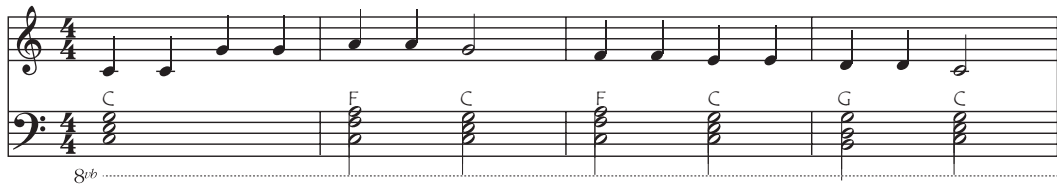


事前準備：イントロ・エンディング・ボタンを押しておきます。

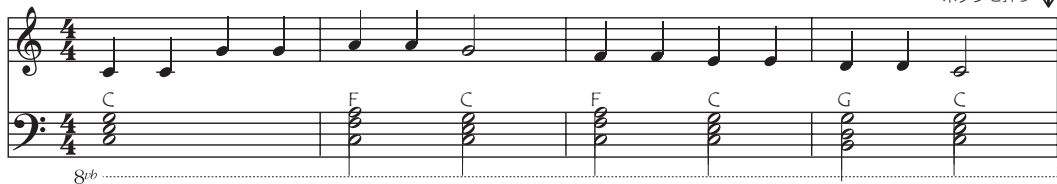
最初のコードを弾いて、コードを認識させます。



↓ 再生ボタンを押す



イントロ・エンディング・ボタンを押す ↓



XE20では、さらに演奏の幅を広げることができます。
 詳しい機能を次のページから説明していきますのでお楽しみください。

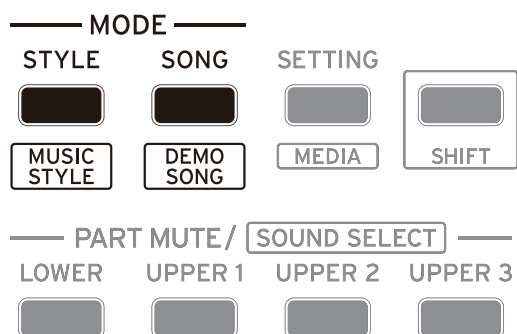


基本操作

モードについて

本機には、スタイル・モード、ソング・モードという2つのモードがあります。

フロント・パネルのモード・セクションのボタンを押して、それぞれのモードへ入ります。



電源を入れたときは、自動的にスタイル・モードに入ります。

スタイル・モード

スタイル・モードでは、本機に用意されているサウンドを選んで、または好みのサウンドを組み合わせて鍵盤で演奏をしたり、自動伴奏機能(スタイル)を使った演奏をしたりします。また、自動伴奏機能を使った演奏は、録音することができます。

ソング・モード

ソング・モードでは、デモ・ソングやユーザー・ソング、音楽データ(MP3、WAV、SMF)を再生したり、それらに合わせて演奏したりします。また、ユーザー・ソングは簡単な編集をすることができます。

その他の機能について

セッティング機能

鍵盤のタッチ、マスター・チューン、スケールなどの本機全体に関する設定や、接続したペダルに関する設定、MIDI関連の設定を行います。

メディア機能

接続したUSBメモリーに、セット・リストを保存またはロードしたり、ユーザー・ソングを保存したりします。また、USBメモリーのフォーマットや、システムのアップデートもメディア機能で行います。

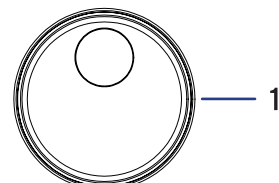
音の選び方、値の変え方

音を選んだり設定の値を変更したりするときは、ダイヤル、+、-ボタン、カテゴリー・ボタン◀、▶を使います。

1. ダイヤル

番号や値などの数値を変更します。

右に回すと数値が大きくなり、左に回すと小さくなります。



2. カテゴリー・ボタン◀、▶

スタイル・モード、ソング・モードでは、スタイル、サウンドなどを選ぶときにカテゴリー・ボタン◀、▶を押すと、カテゴリー、ジャンル等でグループ分けされた先頭の番号が選ばれます。

セッティング機能、メディア機能では、ページを選ぶときにカテゴリー・ボタン◀、▶を押します。



3. +ボタン、-ボタン

- +ボタンまたは-ボタンを1回押すと、ひとつ上または下の数値になります。

- +ボタンまたは-ボタンを押し続けると、数値が連続して変わります。

弾いてみよう(スタイル・モード)

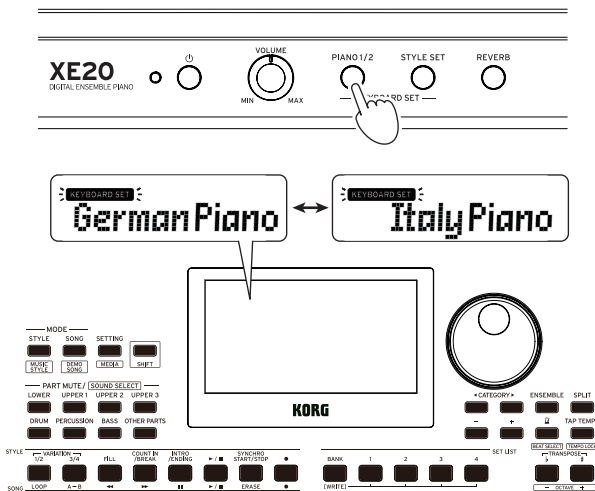
グランド・ピアノの音を選ぶ

- ピアノ1/2 ボタンを押します。

このボタンを押すと、すぐにグランド・ピアノの音選ばれます。ボタンを押すごとに、ピアノ1とピアノ2の音色が切り替わります。

ピアノ1: ジャーマン・ピアノ

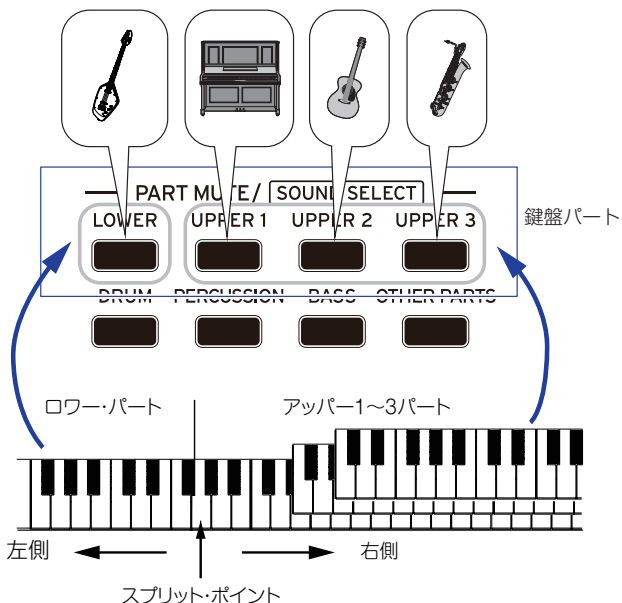
ピアノ2: イタリア・ピアノ



スタイル・セットの音を選ぶ

キーボード・セットとは

キーボード・セットは鍵盤演奏のためのサウンドの集まりです。キーボード・セットにはピアノ、ストリングス、シンセサイザー、ドラムなどのサウンドが、4つのパート(ロー、アッパー1~3)に割り当てられています。これらの4パートをまとめて**鍵盤パート**と呼びます。



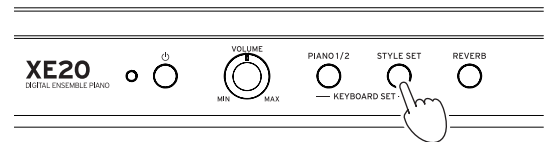
Tip: キーボード・セット、サウンドのリストは、「ボイス・ネーム・リスト」(PDF)を参照してください。

スタイル・セットとは

スタイル(伴奏)ごとに、適したキーボード・セットが用意されています。これをスタイル・セットと呼びます。

1. スタイル・セット・ボタンを押します。

スタイルに適したキーボード・セットが呼び出されます。

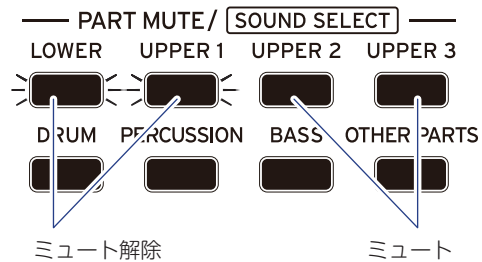


パートをミュートする、サウンドを変える

鍵盤パート(アッパー1~3、ロー)や、伴奏パート(ドラム、パーカッション、ベース、アザー・パーツ)で、個々のパートをミュート(消音)したり、パートのサウンドを変更したりすることができます。

ミュートする

- 各パート・ボタンを押してミュートします(ボタンが消灯)。もう一度押すと、ミュートが解除されます(ボタンが点灯)。

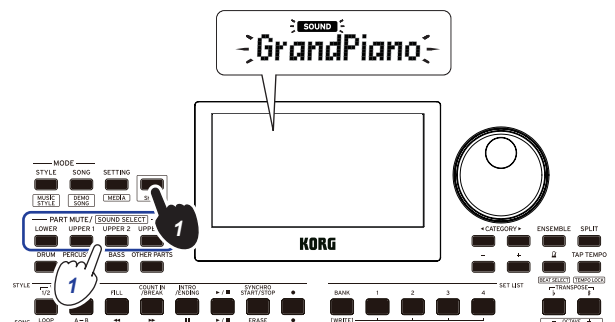


サウンドを変更する

1. [シフト]ボタンを押しながら、変更するパート・ボタンを押します(パート・ボタンが点滅)。

ディスプレイに **SOUND** とサウンド名が点滅します。

Note: アザー・パーツではサウンドを変更できません。



2. ダイヤルまたは+、-ボタンで、サウンドを選びます。
3. [シフト]ボタンを押して、元のモードへ戻ります。

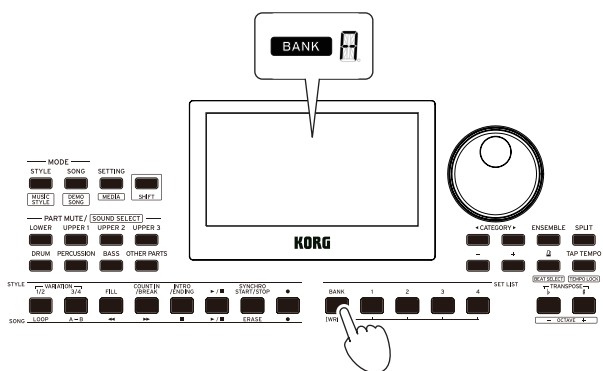
セット・リストを選ぶ

セット・リストは、お気に入りの設定(スタイル、テンポやエフェクトなど)を保存し、すぐに呼び出すことができます(21ページの「セット・リストを保存する(WRITE)」参照)。

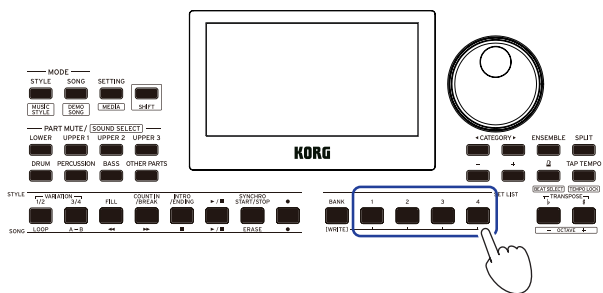
バンクAの1~4とバンクBの1~4には、お勧めのセット・リストが保存されています。電源を入れた直後は、バンクAの1が選ばれますが、キーボード・セットはジャーマン・ピアノになります。

1. バンク/ライト・ボタンを何回か押して、バンクを選びます。
バンク/ライト・ボタンを押すと、バンクはA→B→C...J→A...の順に表示されます。

Tip: [シフト]ボタンを押しながら押すと、バンクが逆の順に選ばれます。



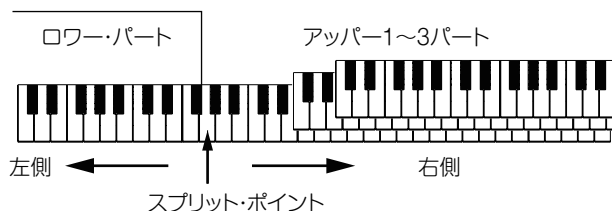
2. 1~4ボタンを押してセット・リストを選びます。



左右の音を変える(スプリット)

鍵盤の高音域側をアッパー1~3パートに、低音域側をローワー・パートに分けることができます。これをスプリット機能といい、サウンドが切り替わる(アッパー・パートの一番下になる)鍵盤をスプリット・ポイントといいます。

スプリット機能をオンにして、左右違う音で演奏できます。また、各パートのサウンドを変更することもできます(13ページの「サウンドを変更する」参照)。

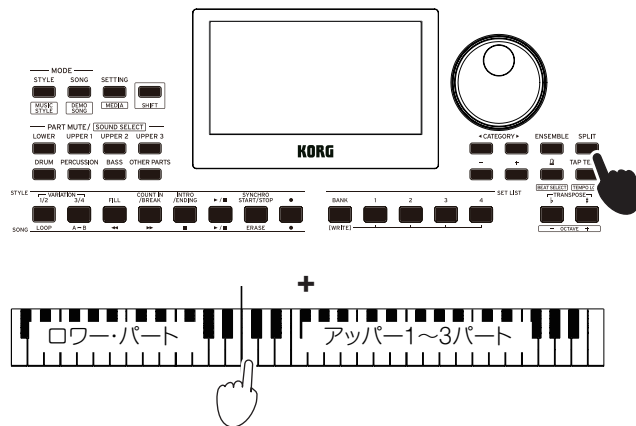


- **スプリットをオンにする:** スプリット・ボタンを押すと、スプリットがオン(ボタンが点灯)になり、鍵盤が2つの音域に分かれます。
- **スプリットをオフにする:** もう一度スプリット・ボタンを押すとスプリットがオフ(ボタンが消灯)になり、鍵盤全域がアッパー1~3パートとなります。

アッパー1~3パート



- **スプリット・ポイントを変更する:** スプリット・ボタンを押しながら鍵盤を押します。

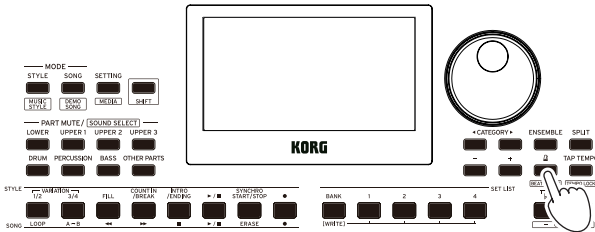


メトロノームに合わせて弾く

メトロノームのテンポや拍子に合わせて練習できます。

メトロノームを設定する

- メトロノームを鳴らす：[メトロノーム]/[ビート・セレクト]ボタンを押すとメトロノームが鳴り(ボタンが点灯)、もう一度[メトロノーム]/[ビート・セレクト]ボタンを押すと停止します。



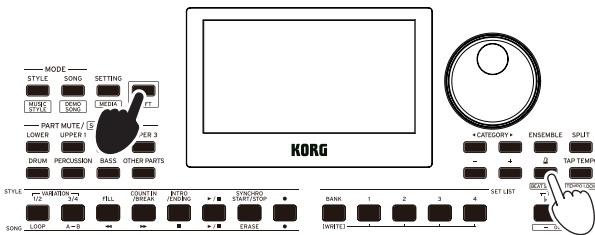
- 拍子の設定：[シフト]ボタンを押しながら[メトロノーム]/[ビート・セレクト]ボタンを何回か押します。

2/2...16/16 → Click HI → Click LOW → 2/2 ...

2/2、2/4、3/4、4/4、5/4、7/4、6/8、8/8、16/16：拍子

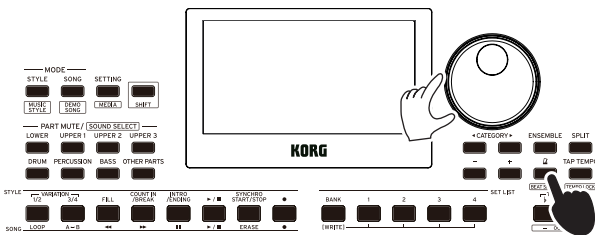
Click HI：アクセント音のみ

Click LOW：アクセント無し



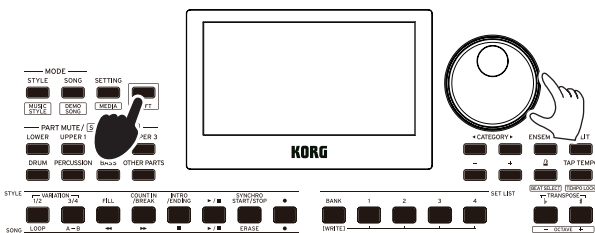
⚠ 自動伴奏の拍子を変えることはできません。

- 音量の調節：[メトロノーム]/[ビート・セレクト]ボタンを押しながらダイヤルを回します。



テンポを調節する

- [シフト]ボタンを押しながらダイヤルを回します。

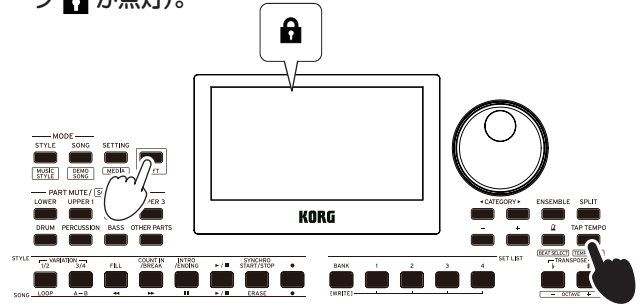


- 設定するテンポのタイミングで、スタイルの拍子と同じ数だけタップ・テンポ/[テンポ・ロック]ボタンを押します(4/4拍子の場合は4回、3/4拍子の場合は3回)。

Note: タップ・テンポ/[テンポ・ロック]ボタンをそれ以上押すと、伴奏が始まります(タップ・スタート機能)。タップ・スタート機能は、オフにすることができます(26ページの「Tap Auto Start」参照)。

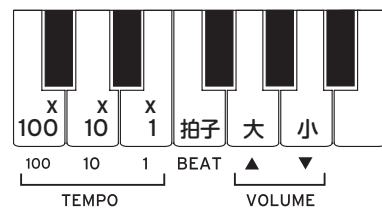
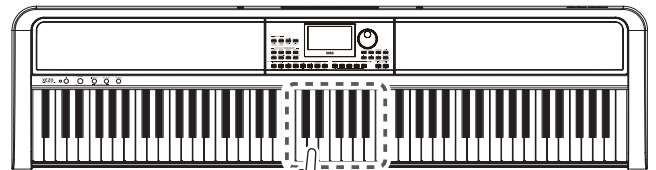
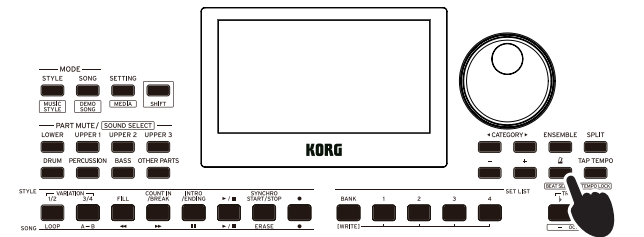
テンポを固定する(テンポ・ロック)

- [シフト]ボタンを押しながら、タップ・テンポ/[テンポ・ロック]ボタンを押します(ディスプレイにテンポ・ロック・マーク が点灯)。



鍵盤を使用してメトロノームの設定をする

[メトロノーム]/[ビート・セレクト]・ボタンを押しながら鍵盤を押すことでも、拍子の設定と音量の調節、テンポの調節をすることができます。



- 拍子の設定：「拍子」を押すたびに、2/2 → ... → 16/16 → Click HI → Click LOW → 2/2 ... と設定が変わります。

⚠ 自動伴奏の拍子を変えることはできません。

- 音量の調節：「小」を押すたびに音量が小さく、「大」を押すたびに音量が大きくなります。音量の値は10ずつ増減します。たとえば、音量の値が93のときに「大」を押すと、音量の値が103になります。

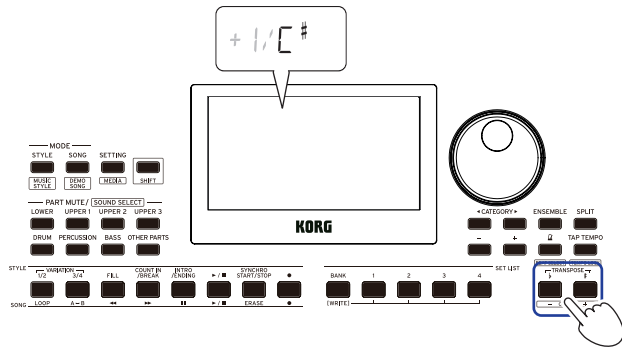
- テンポの調節：鍵盤の「x100」(百の位)、「x10」(十の位)、「x1」(一の位)を押して設定します。たとえば ♩=85の場合は「x10」を8回、「x1」を5回押し、♩=140の場合は「x100」を1回、「x10」を4回押します。[メトロノーム]/[ビート・セレクト]ボタンを離れたときに値が設定されます。設定範囲は♩=30~240で、それより小さな値が設定された場合は♩=30に、設定範囲より大きな値が設定された場合は♩=240に設定されます。

音の調やオクターブを設定する

トランスポーズ(移調)する

本機のキー(調)を、半音単位、±1オクターブの範囲で変更します。キーの設定は、ディスプレイに表示されます。

- キーを下げる: トランスポーズ \flat / [オクターブ -] ボタンを押します。
- キーを上げる: トランスポーズ \sharp / [オクターブ +] ボタンを押します。
- キーを元の設定に戻す: トランスポーズ \flat / [オクターブ -] ボタンと、トランスポーズ \sharp / [オクターブ +] ボタンとを同時に押します。

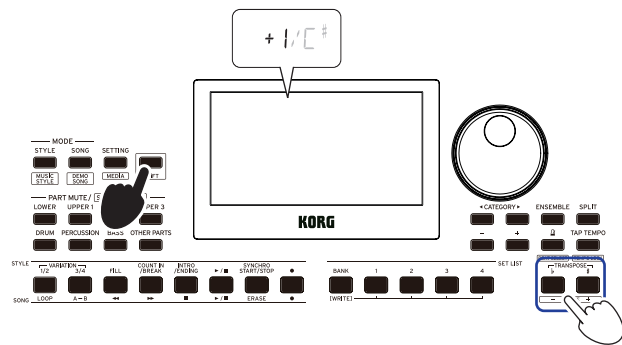


オクターブを変える

鍵盤を弾いたときに、実際に演奏されるピッチ(音の高さ)を1オクターブ単位で上下させます。±2オクターブの範囲で設定できます。

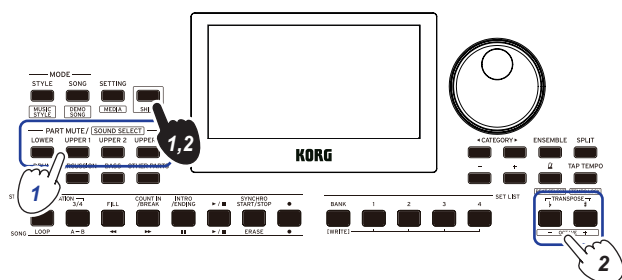
■ 鍵盤全体全体のオクターブを変える

- オクターブを下げる: [シフト] ボタンを押しながら、トランスポーズ \flat / [オクターブ -] ボタンを押します。
- オクターブを上げる: [シフト] ボタンを押しながら、トランスポーズ \sharp / [オクターブ +] ボタンを押します。



■ パートごとのオクターブを変える

1. [シフト] ボタンを押しながら、変更するパート・ボタンを押します(パート・ボタンが点滅)。ディスプレイに **SOUND** とサウンド名が点滅します。



2. [シフト] ボタンを押しながら、トランスポーズ \flat / [オクターブ -] ボタンまたはトランスポーズ \sharp / [オクターブ +] ボタンを押します。

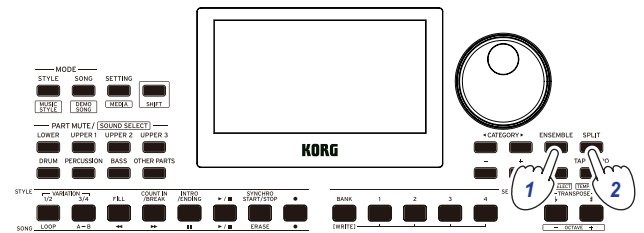
Tip: パートごとのオクターブは、変更するパート・ボタンを押しながらトランスポーズ \flat / [オクターブ -] ボタンまたはトランスポーズ \sharp / [オクターブ +] ボタンを押すことによっても、変えることができます。

演奏に効果をつける

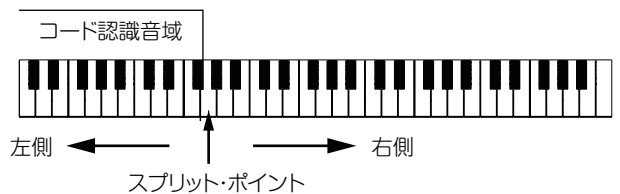
メロディーにハーモニーを付ける

コードに合わせて弾いたメロディーにハーモニーを付けます。選択したスタイルによって、ハーモニーの付き方が異なります。

1. アンサンブル・ボタンを押します。



2. スプリット・ボタンを押して、スプリットをオンにします(ボタンが点灯)。スプリットをオンにすると、スプリット・ポイントの左側(ロー・パート)がコード認識音域となります。スプリットをオフにすると、鍵盤の全域がコード認識音域となります。



Tip: スプリット・ポイントを変更するときは、スプリット・ボタンを押しながら鍵盤を押します。スプリットについては、14ページの「左右の音を変える(スプリット)」を参照してください。

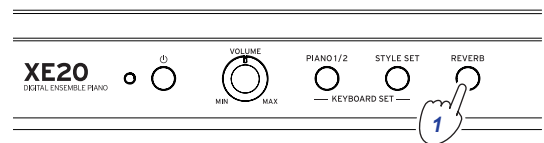
3. コード認識音域でコードを、右手でメロディーを弾きます。

リバーブをオン、オフする

音に残響を加えるリバーブをオン、オフします。

1. リバーブ・ボタンを押します。

リバーブがかかっているときにボタンを押すと、リバーブがオフになります。リバーブがかかっていないときにボタンを押すと、リバーブがオンになります。



Note: キーボード・セットによっては、リバーブ効果のないものがあり、この場合リバーブをかけることはできません。

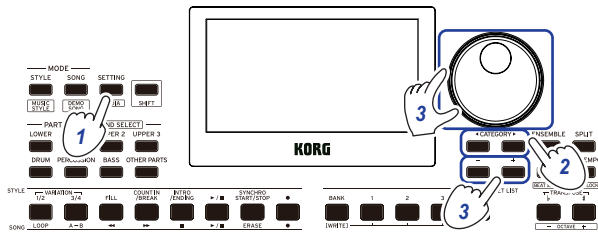
⚠ この設定は電源を切ると保存されません。

エフェクトをかける

各キーボード・セットには2つのエフェクト(エフェクト1、エフェクト2)が含まれており、エフェクトをかける量(SEND・レベル)によって聞こえ方の印象が変わります。

Note: エフェクトによってはあまり効果が変わらないものもあります。

1. セッティング/[メディア]ボタンを押します。
2. カテゴリー・ボタン ◀、▶ を押して、P.14 ~ P.21 から設定したいエフェクト(1 または 2)、設定したいパート(ロー、アッパー 1 ~ 3)の画面を表示します。



3. ダイヤルまたは+、-ボタンで、エフェクトのSEND・レベルを設定します。

SEND・レベルは、0のときエフェクトがかからず、数字が大きくなるほどエフェクトのかかり具合が大きくなります。

4. [シフト]ボタンを押して、元のモードへ戻ります。

Tip: 設定を保存する場合はセット・リストで保存してください。

イコライザーを選ぶ

内蔵スピーカーの出力音を聴きやすくしたり、音楽ジャンルに合った音質にしたりすることができます。

1. セッティング/[メディア]ボタンを押します。
2. カテゴリー・ボタン◀、▶を押して、“P12:Speaker EQ”を選びます。
3. ダイヤルまたは+、-ボタンで、イコライザーを選びます。

スピーカー EQは、8種類あります。

Standard → Bass Boost → Bass Cut → Treble Boost
→ Treble Cut → Mid Boost → Mid Cut → Loudness → Standard ...

(初期設定はBass Boost)

4. [シフト]ボタンを押して、元のモードへ戻ります。

Tip: 設定を保存する場合はセット・リストで保存してください。

自動伴奏(スタイル・モード)

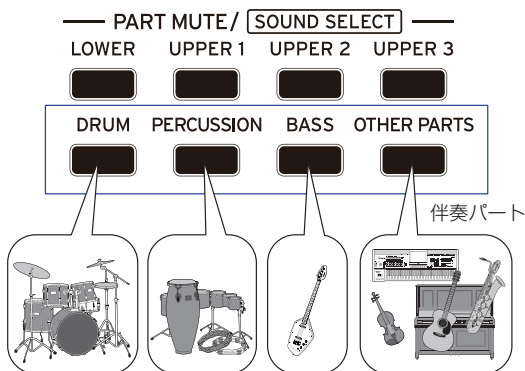
自動伴奏に合わせて弾く

自動伴奏とは、コードを指定すると、そのコードに合わせた伴奏を自動的につけてくれる機能です。本機には、ダンスやロック、ジャズ、ラテン音楽などのさまざまジャンルの伴奏パターンが収められています。これらを**スタイル**といいます。

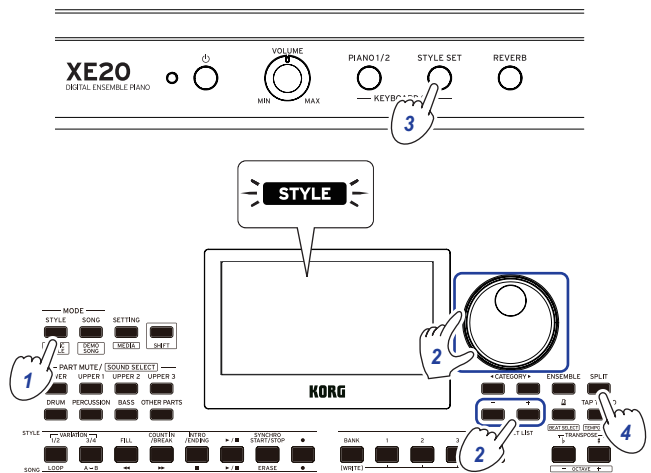
スタイルは280以上あり、17のグループに分かれています。

スタイルを選んで演奏する

スタイル(自動伴奏)で使用されるサウンドは、4つのパート(ドラム、パーカッション、ベース、アザー・パーツ)に割り当てられています。これらの4パートをまとめて**伴奏パート**と呼びます。



1. **スタイル/[ミュージック・スタイル]ボタンを押します。**
スタイル・モードに入ります。ディスプレイに **STYLE** が点滅し、スタイル名が表示されます。

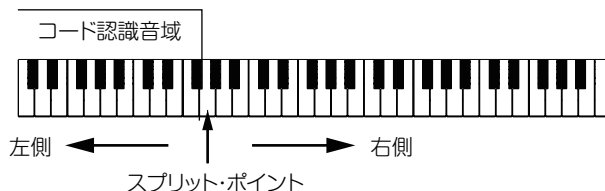


2. **ダイヤルまたは+、-ボタンで、スタイルを選びます。**
カテゴリー・ボタン◀、▶を押すと、スタイルが音楽ジャンルごとに切り替わります。
Tip: スタイルの音楽ジャンルについては「ボイス・ネーム・リスト」(PDF)を参照してください。
3. **スタイル・セット・ボタンを押します。**
スタイルに適したキーボード・セットが呼び出され、キーボード・セット名の前に“**ST**” (スタイル・セット)と表示されます。

4. **スプリット・ボタンを押して、スプリットをオンにします(ボタンが点灯)。**

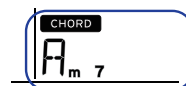
スプリットをオンにすると、スプリット・ポイントの左側(ロー・パート)がコード認識音域となります。

スプリットをオフにすると、鍵盤の全域がコード認識音域となります。



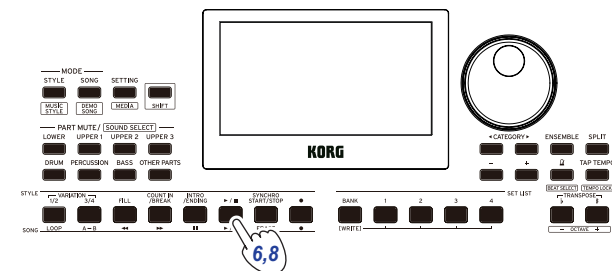
Tip: スプリット・ポイントを変更するときは、スプリット・ボタンを押しながら鍵盤を押します。スプリットについては、14ページの「左右の音を変える(スプリット)」を参照してください。

5. **コード認識音域でコードを弾きます。**
ディスプレイに、認識したコード名が表示されます。



Tip: コードの認識方法は、セッティング機能のChord Detectで変更することができます(26ページの「Chord Detect」参照)。

6. **スタート/ストップ・ボタンを押します。**
自動伴奏が開始され、スタート/ストップ・ボタンが緑で点灯します。



7. **コード認識音域でコードを弾きながら、スプリット・ポイントより右側でメロディーを弾きます。**
コードを変更すると、それに合わせて伴奏が追従します。

Tip: 本機が認識するコードは「コード認識一覧」(34ページ)を参照してください。

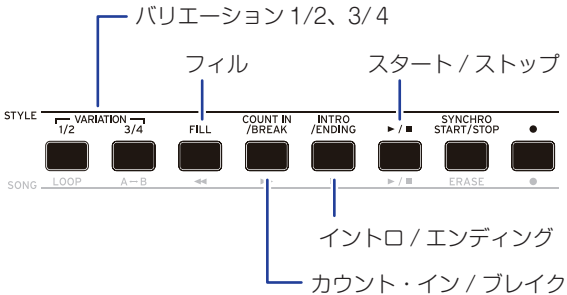
Tip: テンポを変更したり、テンポをロックしたりするときは「テンポを調節する」(15ページ)を参照してください。テンポをロックすると、他のスタイルを選んでもテンポが変わりません。

8. **自動伴奏を停止するときは、スタート/ストップ・ボタンを押します。**

自動伴奏に変化をつける

イントロを入れる、バリエーションを設定する

スタイル・セクションの各ボタンを操作すると、最初にイントロを入れたり、フィルインやブレイク、最後にエンディングを入れたり、演奏に変化を付けることができます。



1. 「スタイルを選んで演奏する」(18ページ)の操作1～4を行います。
2. バリエーション・ボタン1/2または3/4を押して、バリエーションを選びます。
ボタンを押すたびに、バリエーション1と2、バリエーション3と4が切り替わります。

バリエーション	バリエーション・ボタン	ボタンの状態	内容
1	1/2	緑で点灯	シンプル
2	1/2	赤で点灯	やや複雑
3	3/4	緑で点灯	複雑
4	3/4	赤で点灯	高度で複雑

バリエーション1から4になるに従って、より複雑なアレンジになります。

3. イントロ/エンディング・ボタンを押して、イントロを選びます。
ボタンを押すたびに、イントロ1と2が切り替わります。

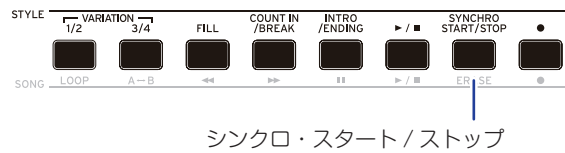
イントロ/エンディング	ボタンの状態	内容
1	緑で点灯	コード・チェンジを含む
2	赤で点灯	コードを固定

Tip: イントロ/エンディング・ボタンは、演奏開始前に押すとイントロの選択になり、演奏中に押すとエンディングの選択になります。

4. コード認識音域でコードを弾きます。
ディスプレイに、認識したコード名が表示されます。
5. スタート/ストップ・ボタンを押します。
イントロが始まり、続いてバリエーションの伴奏が続きます。
6. 左手でコード、右手でメロディーを弾きます。
7. バリエーション・ボタン1/2、3/4、フィル・ボタン、カウント・イン/ブレイク・ボタンを押して、変化を付けながら演奏しましょう。
8. 演奏を終えるときは、イントロ/エンディング・ボタンを押して、エンディングを選びます。
ボタンを押すたびに、エンディング1(緑で点灯)と2(赤で点灯)が切り替わります。
エンディングの後、伴奏が終わります。

シンクロ・スタート、シンクロ・スタート/ストップ機能を使う

鍵盤を弾くと同時に伴奏を開始させたり(シンクロ・スタート機能)、鍵盤を弾いているときだけ伴奏させたり(シンクロ・スタート/ストップ機能)することができます。



■ シンクロ・スタート機能

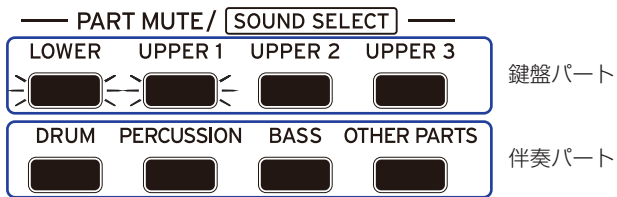
1. シンクロ・スタート/ストップ・ボタンを押して、ボタンを緑で点滅させます。
シンクロ・スタート機能がオンになります。
2. コード認識音域でコードを弾くと、伴奏が開始します。
ボタンが緑の点灯に変わります。
3. 伴奏を停止するときは、スタート/ストップ・ボタンを押します。

■ シンクロ・スタート/ストップ機能

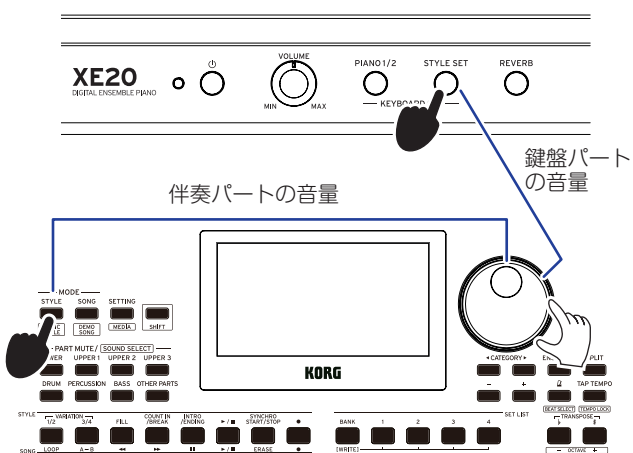
1. シンクロ・スタート/ストップ・ボタンを何回か押して、ボタンを赤で点滅させます。
シンクロ・スタート/シンクロ・ストップ機能がオンになります。
2. コード認識音域でコードを弾くと伴奏が開始し、指を離すと伴奏が停止します。再び弾くと伴奏が開始します。
伴奏中はボタンが緑の点滅に変わります。
3. シンクロ・スタート/ストップ機能を解除するときは、シンクロ・スタート/ストップ・ボタンを何度か押して、ボタンを消灯させます。

鍵盤パート、伴奏パートの音量を調節する

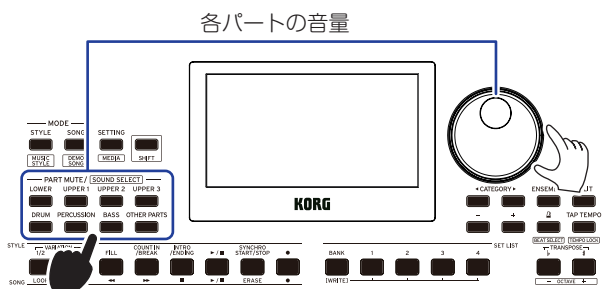
伴奏に対して鍵盤での演奏をソロ演奏のように目立たせたり、バランスよく演奏したりするために、鍵盤パートと伴奏パートの音量バランスを調節することができます。



- 鍵盤パート(アッパー1～3、ロワー)全体の音量を調節する：スタイル・セット・ボタンを押しながらダイヤルを回します。
- 伴奏パート(ドラム、パーカッション、ベース、アザー・パーツ)全体の音量を調節する：スタイル/[ミュージック・スタイル]ボタンを押しながらダイヤルを回します。



- 各パートの音量を個別に調節する：パート・ミュート/[サウンド・セレクト]セクションの各ボタンを押しながらダイヤルを回します。



ミュージック・スタイルを選んで演奏する

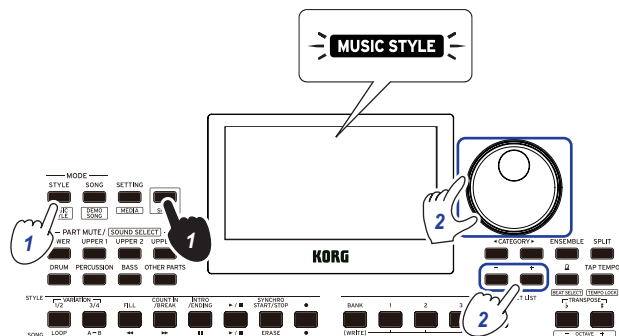
スタイルの代わりにミュージック・スタイルを選択し、演奏や録音をすることができます。

ミュージック・スタイルとは、スタイルを元にし、イメージしやすい既存曲の雰囲気合ったキーボード・セットと、テンポ等の設定が最適化されたスタイルです。

お好みのジャンルの音楽を演奏する際に活用できます。

Note: ミュージック・スタイルはセット・リストへ保存することはできません。

1. [シフト]ボタンを押しながらスタイル/[ミュージック・スタイル]ボタンを押します。
ミュージック・スタイル・モードに入り、ディスプレイに **MUSIC STYLE** が点滅します。



2. ダイヤルまたは+、-ボタンで、ミュージック・スタイルを選びます。

Tip: ミュージック・スタイルについては、「ボイス・ネーム・リスト」(PDF)を参照してください。

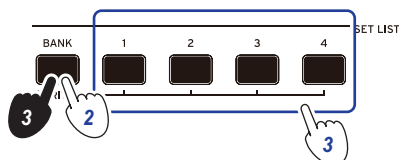
3. 「スタイルを選んで演奏する」(18ページ)の操作3以降、または「イントロを入れる、バリエーションを設定する」(19ページ)の操作2以降を行います。

Tip: 「自動伴奏に変化をつける」(19ページ)で、サウンドをミュートしたり、パートの音量を調節したりするのもよいでしょう。

セット・リストを保存する(WRITE)

セット・リストは、スタイルやテンポ、キーボード・セットやエフェクト設定などを保存したものです。スタイルを自分の好みの設定にしたら、セット・リストに保存することをお勧めします。

1. スタイル・モードで、鍵盤パートのサウンドを変更したり、オクターブを変えたりして、好みの設定にします。
2. バンク/ライト・ボタンを押して、保存先のバンクを選びます。バンク/ライト・ボタンを押すたびに、バンクはA→B→C...J→A...の順に切り替わります。
 - ・バンクA～B：プリロード
 - ・バンクC～J：初期設定



Tip: [シフト]ボタンを押しながらバンク/ライト・ボタンを押すと、バンクは逆の順に切り替わります。

3. バンク/ライト・ボタンを押しながら1～4ボタンの1つを押します。設定がセット・リストに上書き保存され、押したボタンが点灯します。

Tip: 電源を入れた直後はバンクAの1が選ばれます。

セット・リストには以下の設定が保存されます。

- **スタイル**
スタイル番号、音量、バリエーション、イントロ
- **キーボード・セット**
キーボード・セット番号、音量、オクターブ設定
- **パート**
各パートに割り当てたサウンド、音量、ミュート、オクターブ設定
- **その他**
エフェクト1、2に選択したエフェクト、エフェクト1、2のセンド・レベル、テンポ、トランスポーズ、スプリットのオン/オフ、スプリット・ポイント、アンサンブルのオン/オフ、メトロノームの音量、スピーカー EQ

Note: セット・リストによっては、演奏中に別のセット・リストに変更すると、正しく切り替わらない場合があります。

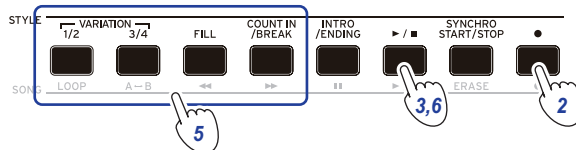
演奏を録音する

自分の演奏を録音することができます。

1. 「スタイルを選んで演奏する」(18ページ)の操作1～5、または「イントロを入れる、バリエーションを設定する」(19ページ)の操作1～4を行います。

Tip: 「自動伴奏に変化をつける」(19ページ)で、サウンドをミュートしたり、パートの音量を調節したりするのもよいでしょう。

2. 録音ボタンを押して、録音待機状態にします(ボタンが赤で点灯)。



Note: ミュートしたパートは録音されません。録音するパートはミュートを解除してください(13ページの「パートをミュートする、サウンドを変える」参照)。

3. スタート/ストップ・ボタンを押します。録音が始まります。
4. 左手でコード、右手でメロディーを弾きます。
5. バリエーション・ボタン1/2、3/4、フィル・ボタン、カウント・イン/ブレイク・ボタンを押して、変化を付けながら演奏しましょう。
6. 録音を終えるときは、スタート/ストップ・ボタン、またはイントロ/エンディング・ボタンを押します。録音されたデータは、ユーザー・ソングとして自動的に保存されます。

Tip: ユーザー・ソングのソング名は“UserSong”で、ソング名の後ろに録音した順に番号が付きます。最大999曲まで録音できます。

Tip: ユーザー・ソングを聴くときは、「ソングと一緒に演奏する」(22ページ)を参照してください。

Tip: ユーザー・ソングは簡単な編集ができます(23ページの「ソングを編集する」参照)。

録音

		Rec Start					Rec Stop	
パート	Upper 1						MIDI ch 1	
	Upper 2						MIDI ch 2	
	Upper 3						MIDI ch 3	
	Lower						MIDI ch 4	
	Bass						MIDI ch 9	
	Drum						MIDI ch 10	
	Perc						MIDI ch 11	
	Other Parts						MIDI ch 12-16	

		Rec Start					Rec Stop	
パート	Upper 1						MIDI ch 1	
	Upper 2	ミュート					MIDI ch 2	
	Upper 3	ミュート					MIDI ch 3	
	Lower						MIDI ch 4	
	Bass						MIDI ch 9	
	Drum						MIDI ch 10	
	Perc						MIDI ch 11	
	Other Parts						MIDI ch 12-16	

Tip: 自動伴奏を鳴らさずに、鍵盤パートのみ(例えばピアノの演奏など)を録音することもできます。

2で録音ボタンを押す前に、伴奏パート(ドラム、パーカッション、ベース、アザー・パーツ)の各ボタンを押して伴奏パートをミュートし(ボタンが消灯)、スプリット・ボタンを押してスプリットをオフにしてください。

パートのミュートは「パートをミュートする、サウンドを変える」(13ページ)を参照してください。

ソング・モード

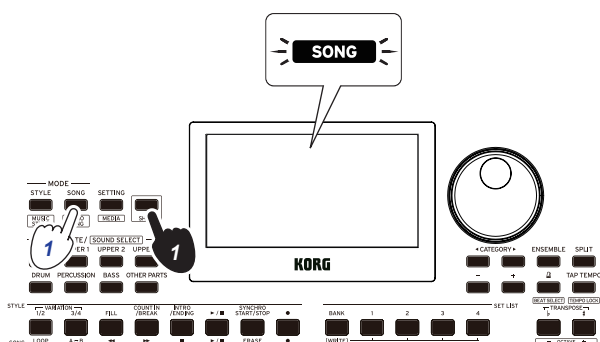
デモ・ソングを聴く

本機には、デモ・ソングが21曲内蔵されています。これらのデモ・ソングを聴いてみましょう。

Tip: デモ・ソングに合わせて演奏するときは、「ソングと一緒に演奏する」(22ページ)を参照してください。

1. [シフト]ボタンを押しながらソング/[デモ・ソング]ボタンを押します。

ディスプレイに **SONG** が点滅し、デモ・ソングがD01から順番に再生されます。



特定のデモ・ソングを選んで再生するときは、ダイヤルまたは+、-ボタンで、デモ・ソングを選びます。選んだデモ・ソングから順番に再生されます。

2. 終了するときは、[シフト]ボタンを押します。

ソングと一緒に演奏する

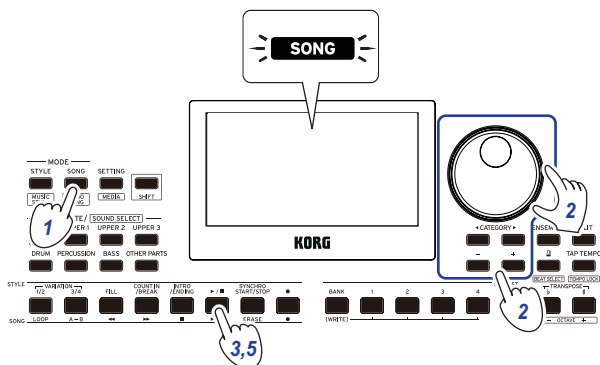
ソングを再生しながら、一緒に演奏することができます。

- USBメモリー内のMP3、WAV、スタンダードMIDIファイルを再生するときは、それらのデータが入ったUSBメモリーを、リア・パネルのUSB TO DEVICE端子に接続します。ディスプレイの右上にUSBマーク **USB** が表示されます。

Tip: 本機で使用できるデバイス、または再生できるフォーマットについては、「メディア機能」(28ページ)を参照してください。

1. ソング/[デモ・ソング]ボタンを押します。

ソング・モードに入ります。ディスプレイに **SONG** が点滅し、ソング名が表示されます。



2. カテゴリー・ボタン◀、▶でソングの種類を選び、ダイヤルまたは+、-ボタンでソングを選びます。ソングの種類と、ソング/[デモ・ソング]ボタンの状態は、以下ようになります。

D01 ~ D21 : デモ・ソング(緑で点滅)

001 ~ 999 : ユーザー・ソング(赤で点滅)

M01 ~ M99 : 音楽データ(緑で点滅)

Note: ユーザー・ソングは、本機の演奏を録音したものです(21ページの「演奏を録音する」参照)。

3. スタート/ストップ・ボタンを押します(ボタンが緑で点灯)。

4. ソングに合わせて鍵盤を弾いてみましょう。

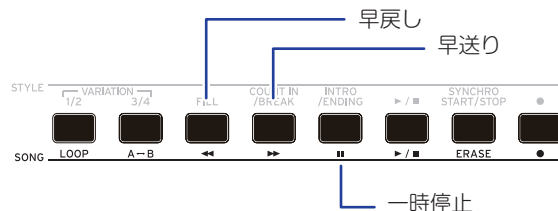
Tip: テンポを変更するときは「テンポを調節する」(15ページ)を参照してください。

5. ソングの再生を停止するときは、スタート/ストップ・ボタンを押します。

Tip: ユーザー・ソングは、編集したりUSBメモリーに保存したりすることができます(23ページの「ソングを編集する」、29ページの「Song Convert」参照)。

いろいろな方法で再生する

ソングを早戻し、早送り、一時停止する



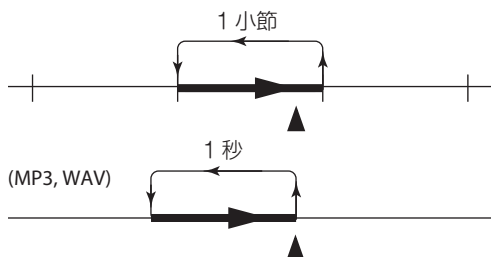
- **早戻しボタン:** 1回押すと1小節前(MP3、WAVでは2秒前)に戻ります。ボタンを長押しすると、押し続けている間早戻しします。
- **早送りボタン:** 1回押すと1小節先(MP3、WAVでは2秒先)に進みます。ボタンを長押しすると、押し続けている間早送りします。
- **一時停止ボタン:** 再生時に押すと一時停止します。もう一度押すと、停止していた位置から再生します。

ソングの一部をループ再生する

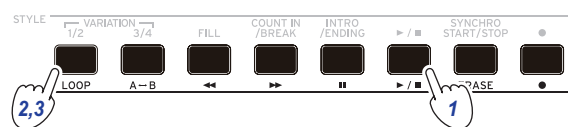
ソングを部分的に繰り返し再生(ループ再生)します。

■ クイック・ループ再生

ループ・ボタンを押すと、その小節をループ再生します。(MP3、WAVでは、ループ・ボタンを押した位置から1秒前に戻り、ループ再生します。)



1. スタート/ストップ・ボタンを押して、ソングを再生します。



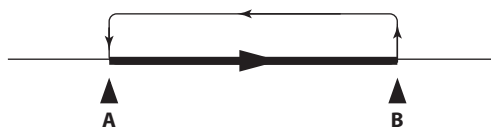
2. 再生を折り返す小節(位置)で、ループ・ボタンを押します(ボタンが緑で点灯)。

Tip: ループ再生の長さを、最大9小節前(MP3、WAVでは9秒前)まで延ばすことができます。ループ再生中にダイヤルを回して長さを設定します。

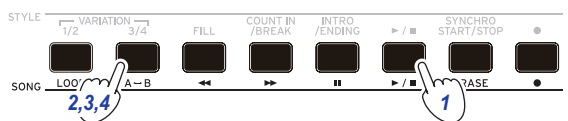
3. ループ再生を解除するときは、ループ・ボタンを押します。通常の再生に戻り、ボタンが消灯します。

■ A-Bループ再生

A↔Bボタンで区間を指定すると、A、B間をループ再生します。



1. スタート/ストップ・ボタンを押して、ソングを再生します。



2. ループさせる区間の先頭でA↔Bボタンを押します(ボタンが緑で点滅)。
3. ループさせる区間の終点で、A↔Bボタンを押します(ボタンが緑で点灯)。
AとBの間をループ再生します。
4. ループ再生を解除するときは、A↔Bボタンを押します。通常の再生に戻り、ボタンが消灯します。

ソングを編集する

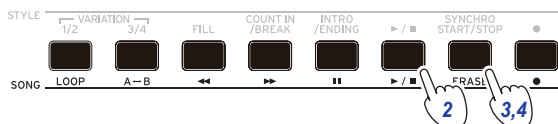
ユーザー・ソングを編集することができます。

録音を部分的に消去する(イレース機能)

ユーザー・ソングの鍵盤パートの演奏を部分的に消去します。

Note: ミュートの設定に関わらず、鍵盤パートの指定範囲の演奏を消去します。

1. ユーザー・ソングを選びます。
2. スタート/ストップ・ボタンを押して、ソングを再生します。



3. 消去を始める位置で、イレース・ボタンを押します(ボタンが赤で点灯)。

4. 消去を終える位置で、イレース・ボタンを押します(ボタンが消灯)。

Tip: 他の部分を消去するときは、スタート/ストップ・ボタンを押して再生を終了し、操作2から行ってください。

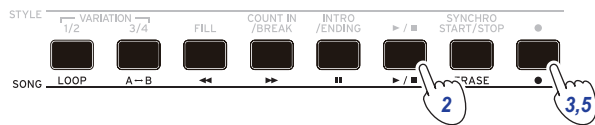
イレース

		Erase On	Erase Off	
パート	Upper 1			MIDI ch 1
	Upper 2			MIDI ch 2
	Upper 3			MIDI ch 3
	Lower			MIDI ch 4
	Bass			MIDI ch 9
	Drum			MIDI ch 10
	Perc			MIDI ch 11
	Other Parts			MIDI ch 12-16

重ねて録音する(オーバー・ダビング機能)

ユーザー・ソングは、鍵盤パートの演奏を重ねて録音できます。また、鍵盤パート、伴奏パートのサウンドの変更も記録できます。

1. ユーザー・ソングを選びます。
2. スタート/ストップ・ボタンを押して、ソングを再生します。



3. 録音ボタンを押します。
ボタンが赤で点灯し、オーバー・ダビングを開始します。

4. 鍵盤を弾いたり、パートのサウンドを変更したりします。

- パートのサウンドを変更するときは、[シフト]ボタンを押しながらパート・ボタンを押し、ダイヤルまたは+、-ボタンでサウンドを選びます。

サウンドを変更すると、その情報がパートに記録されます。

Note: オーバー・ダビング中に鍵盤パートをミュートしたりミュートを解除することができますが、ミュートの状態は記録されません。

Note: サウンドの変更を記録するときは、パートのミュートの解除中に行ってください。サウンドの変更は、アザー・パート以外のパートで有効です。ミュートの解除中は、サウンドの変更や鍵盤での演奏が記録されます。

5. 演奏の変更が終わったら、録音ボタンを押します。
ボタンが消灯し、オーバー・ダビングを終了します。ソングの続きが再生されます。

Note: 再度オーバー・ダビングするときは、スタート/ストップ・ボタンを押して再生を終了し、操作2から行ってください。

- オーバー・ダビングしたソングを確認するときは、スタート/ストップ・ボタンを押してから、オーバー・ダビングしたパートのミュートを解除してください。

オーバー・ダビング

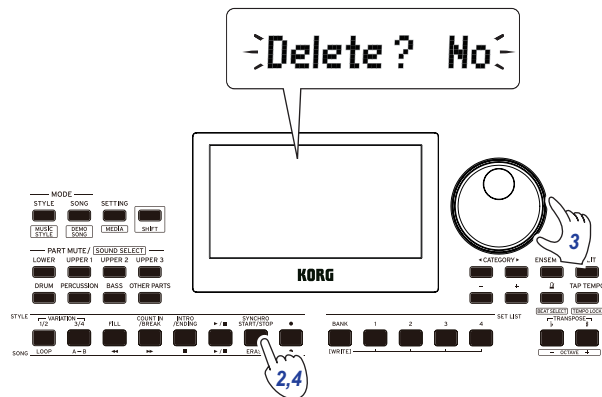
		Rec Start		Rec Stop	
パート	Upper 1	オーバー・ダビング			MIDI ch 1
	Upper 2	オーバー・ダビング			MIDI ch 2
	Upper 3	オーバー・ダビング			MIDI ch 3
	Lower	オーバー・ダビング			MIDI ch 4
	Bass				MIDI ch 9
	Drum				MIDI ch 10
	Perc				MIDI ch 11
	Other Parts				MIDI ch 12-16

		Song Play	Rec Start	Rec Stop	
パート	Upper 1		オーバー・ダビング		MIDI ch 1
	Upper 2		オーバー・ダビング		MIDI ch 2
	Upper 3		オーバー・ダビング		MIDI ch 3
	Lower		オーバー・ダビング		MIDI ch 4
	Bass				MIDI ch 9
	Drum				MIDI ch 10
	Perc				MIDI ch 11
	Other Parts				MIDI ch 12-16

ユーザー・ソングの削除

選択した1つのユーザー・ソングを削除します。

1. ユーザー・ソングを選びます。
2. イレース・ボタンを押します。
ディスプレイに“Delete? No”と表示されます。



3. ダイヤルを回して“Yes”を選びます。

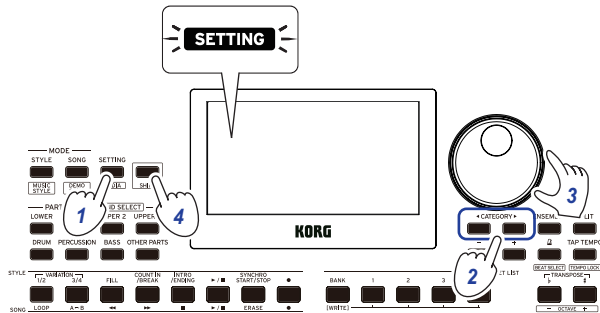
4. イレース・ボタンを押します。
ユーザー・ソングが削除され、“Completed”と表示されます。

セッティング機能

基本的な使い方

セッティング機能の基本的な設定方法は以下のとおりです。

1. **セッティング/[メディア]ボタンを押します。**
セッティング機能に入り、ディスプレイに **SETTING** が点滅します。



2. **カテゴリー・ボタン◀、▶を押して、設定するパラメーターを選びます。**
3. **ダイヤルを回して、値を選びます。**
4. **設定が終わったら[シフト]ボタンを押して、元のモードへ戻ります。**

ペダルの機能を変更する

フット・コントローラー端子に接続したペダル・スイッチ、エクスプレッション・ペダルまたはボリューム・ペダルに合わせ、本機のペダル機能を設定します。

1. **フット・コントローラー端子にペダルを接続します。**
2. **セッティング機能で、カテゴリー・ボタン◀、▶を何度か押して、“P02:Pedal Function”を選びます。**
3. **ダイヤルを回して、ペダルの機能を選びます。**
No Assign：ペダルを使用しないときに選びます。
Damper：工場出荷時の設定です。コルグDS-1H、PS-1、PS-3のようなダンパー・ペダルやペダル・スイッチを使用するときに選びます。
Expression：コルグEXP-2のようなエクスプレッション・ペダルを使用するときに選びます。
4. **[シフト]ボタンを押して、元のモードへ戻ります。**

主なセッティング機能

オート・パワー・オフ機能を変更する

本機には、何も操作しないまま一定時間が経過すると自動的に電源が切れる、オート・パワー・オフ機能があります。工場出荷時は30分に設定されており、この設定を変更することができます

1. **セッティング機能で、カテゴリー・ボタン◀、▶を何度か押して、“P23:Auto PowerOff”を選びます。**
2. **ダイヤルを回して、“Disable”（無効）または電源が切れるまでの時間を選びます。**
3. **[シフト]ボタンを押して、元のモードへ戻ります。**

ペダルの極性を変更する

フット・コントローラー端子に接続したペダルを踏んでも音が持続せず、ペダルから足を離すと音が持続する場合は、本機でペダルの極性を変更します。

1. **セッティング機能で、カテゴリー・ボタン◀、▶を何度か押して、“P03:Pedal Polarity”を選びます。**
2. **ダイヤルを回して、極性を変更します。**
- (KORG)：工場出荷時の設定です。コルグDS-1H、PS-1、PS-3を使用するときに選びます。
+ (Reverse)：ペダル操作で効果が逆になるときに選びます。
3. **[シフト]ボタンを押して、元のモードへ戻ります。**

セッティング機能一覧



(*: 工場出荷時の設定値)

ページ	パラメーター	設定値	内容
P.01	KeyResponse	Soft Touch Medium Touch* Hard Touch Fixed_001...127	鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。 「Soft Touch」では軽く押しでも大きめの音が出て、「Hard Touch」では強めに押さないと大きな音が出ません。「Fixed_001」...「Fixed_127」では、弾く強さに関係なく、オルガンのように常に一定の音の強さで発音します。
P.02	Pedal Function	No Assign Damper* Expression	25ページの「ペダルの機能を変更する」を参照してください。
P.03	Pedal Polarity	-(KORG)* +(Reverse)	25ページの「ペダルの極性を変更する」を参照してください。
P.04	MasterTuning	427.5...440.0*...452.9 Hz	ドラム音を除く全体のチューニングを設定します。
P.05	Chord Detect	Fingered1* Fingered2 Fingered3 Fingered3/Bass One Finger	コードの認識方法を設定します。 この設定はスプリット機能がオンのときに有効で、オフのときはFingered3が有効になります。 Fingered1 ：1音または複数の音を弾きます。1音を弾くとメジャー・コードが認識されます。 Fingered2 ：1音または複数の音を弾きます。1音だけ弾くとユニゾンが再生されます。ルート音と5thを弾くと、メジャー・コードとしてそれらの2音が認識されます。 Fingered3 ：コードを認識させるには常に3音以上弾くことが必要です。 Fingered3/Bass ：Fingered3の設定でベースの転回機能が有効になります。転回されたコードの最低音(押さえたコードの中で一番低い音)をコードのルート(根音)として常に検知します。これによって、Am7/GやF/Cのような複合コードを指定することができます。 One Finger ：コードの認識方法は以下のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1音弾くとメジャー・コードになります。 ルート音を弾きながらその左の白鍵を弾くと、セブンス・コード(たとえばC3とB2を同時に弾くとC7)になります。 ルート音を弾きながらその左の黒鍵を弾くと、マイナー・コード(たとえばC3とB\flat2を同時に弾くとCマイナー)になります。 ルート音を弾きながらその左の白鍵と黒鍵を同時に弾くと、マイナー・セブンス・コード(たとえばC3、B2、B\flat2を同時に弾くとCm7)になります。
P.06	UpperScaleTyp (Upper Scale Type)	KeyboardSet* Equal PureMajor PureMinor Arabic Pythagorean Werckmeister Kirnberger Slendro Pelog	「P.06 UpperScaleTyp」は、アッパー・パートのスケール(音階)を設定します。 「P.07 StyleScaleTyp」は、スタイルの伴奏パート、ローワー・パートのスケールを設定します。 KeyboardSet ：スタイルごとに設定されている音階です。 Equal (平均律)：一般的に広く使われている音律で、各半音のピッチの変化幅が同じになっています。 PureMajor (純正律長音階)：主調和音(C)のメジャー・コードが完全に調和する音階です。 PureMinor (純正律短音階)：主調和音(C)のマイナー・コードが完全に調和する音階です。
P.07	StyleScaleTyp (Style ScaleType)	Equal* PureMajor PureMinor Arabic Pythagorean Werckmeister Kirnberger Slendro Pelog	Arabic (アラビック)：アラビア音楽の1/4トーン・スケールを含む音階です。 Pythagorean (ピタゴリアン)：古代ギリシャのピタゴラス音階で、メロディー演奏に効果的です。 Werckmeister (ヴェルクマイスター)：後期バロック時代に用いられた平均律的な音律です。 Kirnberger (キルンベルガー)：18世紀につくられた音律で、主にハーブシコードの調律に用いられています。 Slendro (スレンドロ)：1オクターブを5音で構成するインドネシアのガムラン音階です。 Pelog (ペログ)：1オクターブを7音で構成するインドネシアのガムラン音階です。 KeyをCに設定しているときに、白鍵を使用します(黒鍵は平均律のピッチです)。
P.08	Tap Auto Start	Disable Enable*	タップ・テンポ/[テンポ・ロック]ボタンを続けて押したときに、自動的に演奏が始まるようにするかを設定します。
P.09	MIDI Clock	Internal* External	本機のMIDIクロックを内部クロックで動作させる(Internal)か、外部クロックで動作させる(External)かを設定します。
P.10	Local Control	Off On*	本機の演奏を内部音源で鳴らす(On)か、鳴らさない(Off)かを設定します。 On ：鍵盤を弾くとMIDIデータが内蔵音源とUSB TO HOST端子に送られます。 Off ：鍵盤を弾くとMIDIデータはUSB TO HOST端子に送られますが、内蔵音源は発音しません。エコー・バックがオンのコンピューターと接続し、本機を音源として使用する場合は、二重に発音するのを防ぐために、ここの設定をOffにします。

ページ	パラメーター	設定値	内容
P.11	Audio In Level	0...100*...127	オーディオ・イン端子に接続されたオーディオ機器からの入力レベルを設定します。
P.12	Speaker EQ	Standard, Bass Boost*, Bass Cut, Treble Boost, Treble Cut, Mid Boost, Mid Cut, Loudness	17ページの「イコライザーを選ぶ」を参照してください。 Standard : 標準的な、自然な音を出力します。 Bass Boost : 低音域をブーストします。 Bass Cut : 低音域をカットします。 Treble Boost : 高音域をブーストします。 Treble Cut : 高音域をカットします。 Mid Boost : 中音域をブーストします。 Mid Cut : 中音域をカットします。 Loudness : 全体的に音量感を増す効果があります。
P.13	Speaker	Off, On*	30ページの「内蔵スピーカーから音を鳴らさないときは」を参照してください。
P.14	Fx1 Send Level Lower	0...127	17ページの「エフェクトをかける」を参照してください。
P.15	Fx1 Send Level Upper1	0...127	
P.16	Fx1 Send Level Upper2	0...127	
P.17	Fx1 Send Level Upper3	0...127	
P.18	Fx2 Send Level Lower	0...127	
P.19	Fx2 Send Level Upper1	0...127	
P.20	Fx2 Send Level Upper2	0...127	
P.21	Fx2 Send Level Upper3	0...127	
P.22	Auto PowerOff	Disable, 5, 10, 30*, 60, 120 Minutes	25ページの「オート・パワー・オフ機能を変更する」を参照してください。

メディア機能

USBメモリーを接続する、取り外す

1. 電源を切ります。
2. USB TO DEVICE端子にUSBメモリー（市販）を接続します。
▲ USBメモリーの向きに注意してください。誤った向きで無理に装着すると、端子やUSBメモリーが破損したり、データが失われることがあります。
3. 本機の電源を入れます。
ディスプレイの右上にUSBマーク  が表示されます。
Note:  が表示されないときは、電源を切ってからUSBメモリーを接続しなおしてください。
Note: 本機で初めて使うUSBメモリーは、必ずフォーマットを行ってください。
▲ USBメモリーを取り外すときは、必ず電源を切ってから行ってください。

基本的な使い方

メディア機能の基本的な設定の仕方は以下のとおりです。

▲ USBメモリーを接続しないとメディア機能が表示できません。

1. USBメモリーを接続します。
「USBメモリーを接続する、取り外す」(28ページ)を参照してください。
2. [シフト]ボタンを押しながらセッティング/[メディア]ボタンを押します。
メディア機能に入ります。
3. カテゴリー・ボタン◀、▶で設定するメニューを選びます。
4. バック/ライト・ボタンを押します。
“Cancel [<]”と表示されます。
5. ダイヤルを回して次の操作を選び、ディスプレイの表示に従って操作します。
たとえば、“Yes [WRITE]” 選択時はバック/ライト・ボタンを押して次に進みます。“Cancel [<]” 選択時はカテゴリー・ボタン◀を押して操作を中止し、操作2に戻ります。
6. 終了すると“Completed!”と表示されますので、[シフト]ボタンを押して、元のモードへ戻ります。

USBメモリーをフォーマットする

USBメモリーを本機で使えるようにするために、フォーマット(初期化)します。

1. メディア機能でカテゴリー・ボタン◀、▶を押して、“Media Format”を選びます。
ディスプレイに、“Enter [WRITE]”と表示されます。
2. バック/ライト・ボタンを押します。
Cancel [<]と表示されます。
3. ダイヤルを回して“Yes [WRITE]”を選び、バック/ライト・ボタンを押します。
“Are You Sure?”と表示されます。
4. ダイヤルを回して“Yes [WRITE]”を選び、バック/ライト・ボタンを押します。
5. 終了すると“Completed!”と表示されますので、[シフト]ボタンを押して、元のモードへ戻ります。

ユーザー・スタイルをロードする

Pa50、Pa50SD、microARRANGERのユーザー・スタイルを本機にロードして使用することができます。

USBメモリーに、ユーザー・スタイル(.STYファイル)とユーザー・プログラム(.PCGファイル)をコピーし、その後本機にロードします。

Note: 製品によって仕様が異なるため、本機での再生は、オリジナル・データを作成した製品と音色が異なる場合があります。

1. コンピューターでUSBメモリーのルート・ディレクトリにXE20フォルダーを作り、その中にSTYLEフォルダー、PROGRAMフォルダーを作ります。
2. STYLEフォルダー内にユーザー・スタイルをコピーし、PROGRAMフォルダー内にユーザー・プログラムをそれぞれコピーします。
 - ・ユーザー・スタイル
USER01.STY ~ USER06.STY
 - ・ユーザー・プログラム
USER01.PCG、USER02.PCG、USERDK.PCG**Tip:** ユーザー・スタイル、ユーザー・プログラムは、ロードするデータを選んでコピーすることもできます。
3. ユーザー・スタイル、ユーザー・プログラムが入ったUSBメモリーを、本機のUSB TO DEVICE端子に接続します。
4. 「基本的な使い方」に従って、メディア機能の“UserStyleLoad”を選んで実行します。
5. 終了すると“Completed!”と表示されますので、[シフト]ボタンを押して、元のモードへ戻ります。
ロードされたユーザー・スタイルは本機のスタイル901.以降に追加され、ユーザー・プログラムはサウンド001.以降に追加されます。いずれも数字の後ろに“.”(ドット)が付きます。
Note: ロード後に別のユーザー・スタイルをロードすると、前回ロードしたユーザー・スタイルは消去されます。

メディア機能一覧

ページ	メニュー	内容
P.01	SetListBackUp	USBメモリーにすべてのセット・リストを保存します。
P.02	SetListRestore	USBメモリーからすべてのセットリストを読み込みます。
P.03	Song Convert	ユーザー・ソングをSMF (スタンダードMIDIファイル) フォーマットでUSBメモリーに保存します。 Current : ソング・モードで現在選ばれているユーザー・ソングです。 ALL : すべてのユーザー・ソングです。
P.04	UserStyleLoad	USBメモリーからPa50、Pa50SD、microARRANGERのユーザー・スタイルをロードします。 28ページの「ユーザー・スタイルをロードする」を参照してください。
P.05	Media Format	USBメモリーをフォーマットします。 28ページの「USBメモリーをフォーマットする」を参照してください。
P.06	SystemUpdate	本体システムをアップデートします。

使用できるメディアについて

FAT16、FAT32フォーマットのUSBメモリー、ディスクなどのUSBストレージ・デバイスに対応します。

認識できる容量

FAT32 : 2TB(2,000GB)まで
FAT16 : 4GBまで

ファイルとデータ構造

本機でUSBメモリーに保存、またはUSBメモリーをフォーマットしたときに、**XE20**というフォルダーが自動的に作成されます。メディア機能でSetListBackUp、Song Convertを行うと、このフォルダーに以下のファイルが保存されます。

SetList : SetListフォルダーが作成され、このフォルダーにSetListData_##.jsonというファイルが保存されます。「##」の部分はファイル番号が入り、01～40の番号が入ります。

UserSong_###.mid : MIDIファイルにコンバートされた本機のUser Songファイルが保存されます (SMFフォーマット0)。「###」の部分はファイル番号が入ります。

本機ではXE20フォルダー内にあるWAV、MP3、SMF、MIDIファイルをユーザー・ソングとして読み込むことができます。

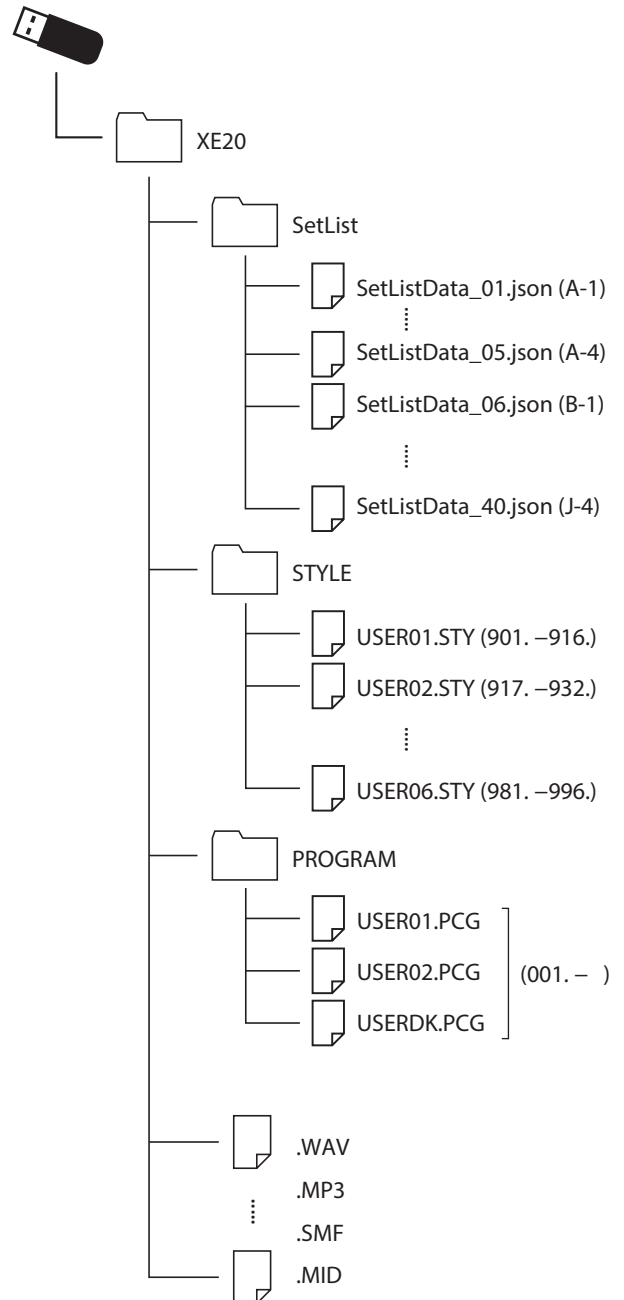
USBメモリーを挿入すると、XE20フォルダー内の対象ファイルを検索し、ソング・モードのM01～M99にリストアップします。

各ファイルの対応フォーマットは以下になります。

WAV : 対応サンプリング周波数=44.1kHz

MP3 : 対応サンプリング周波数=44.1kHz、VBR対応

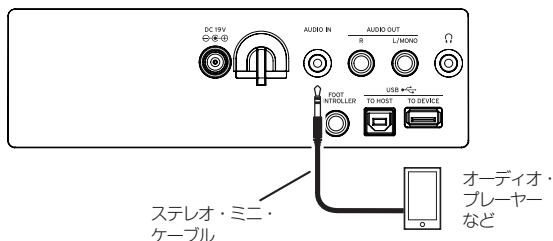
SMF、MIDI : SMFフォーマット0、1



外部機器との接続

オーディオ・プレーヤーを接続する

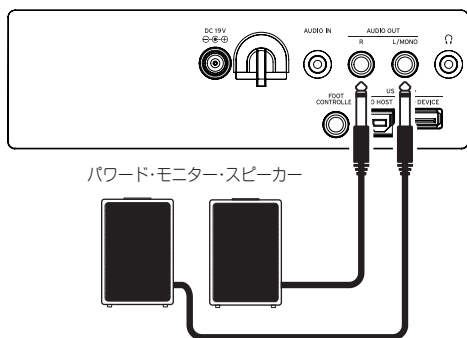
リア・パネルのオーディオ・イン端子(ステレオ・ミニフォン)に、オーディオ・プレーヤーなどのオーディオ機器を接続して、本機の内蔵スピーカーからオーディオ機器の再生音を鳴らすことができます。その再生に合わせて演奏ができます。



1. 本機とオーディオ機器の音量を最小にし、どちらも電源を切ります。
2. ステレオ・ミニ・ケーブルを使って、リア・パネルのオーディオ・イン端子にオーディオ機器を接続します。
3. オーディオ機器、本機の順に電源を入れます。
4. オーディオ機器を再生し、ボリュームを少し上げます。本機のボリュームを上げるとスピーカーから音が鳴ります。
5. 再生音に合わせて鍵盤を弾きながら、オーディオ機器のボリュームを上げ、音量バランスを調節します。全体の音量を調節するときはボリューム・ノブで調節します。
Tip: セッティング機能の「Audio In Level」(27ページ)でオーディオ機器の入力レベル調整ができます。
6. 電源を切るときは、オーディオ機器での再生を停止してから、本機、オーディオ機器の順に行なってください。

パワード・モニター・スピーカーを接続する

リア・パネルのオーディオ・アウト端子(標準フォン)に、パワード・モニター・スピーカーや家庭用ステレオなどの音響機器を接続して、本機の演奏を接続した機器で鳴らすことができます。



⚠ 本機のオーディオ出力は、CDプレーヤーなどの一般的な家庭用音響機器よりも高い信号レベルに設定されています。そのため、過大な音量で演奏すると外部音響機器を破損することがあります。音量の設定には十分ご注意ください。

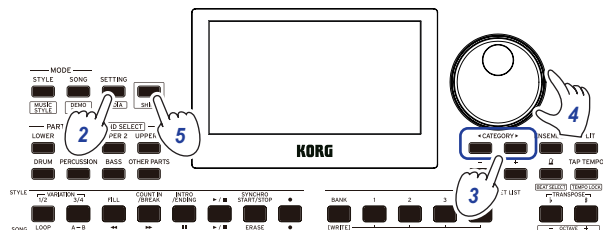
1. 本機と外部音響機器の音量を最小にし、どちらも電源を切ります。

2. 本機のオーディオ・アウト端子に、外部音響機器などのオーディオ入力端子を接続します。
Tip: モノラルで使用するときには、L/MONO端子に接続します。
3. 本機、外部音響機器の順に電源を入れます。
4. 本機のボリュームを少し上げて鍵盤を弾きながら、本機と外部音響機器のボリュームを上げ、音量バランスを調節します。
5. 電源を切るときは、外部音響機器、本機の順に行なってください。

内蔵スピーカーから音を鳴らさないときは

ステージでの演奏などで、内蔵スピーカーから音を出さずに、オーディオ・アウト端子だけから出したいときがあります。

1. 「パワード・モニター・スピーカーを接続する」(30ページ)を参照して、外部音響機器を接続します。
2. セッティング/[メディア]ボタンを押します。
3. カテゴリー・ボタン◀、▶を押して、「P13:Speaker」を選びます。
4. ダイヤルまたは+、-ボタンでオフを選びます。内蔵スピーカーがオフになり、音が鳴らなくなります。
Tip: ヘッドホン端子にプラグを接続した場合も、内蔵スピーカーから音が鳴らなくなります。



5. [シフト]ボタンを押して、元のモードへ戻ります。
 6. 内蔵スピーカーをオンにするときは、手順4でオンを選びます。
- ⚠ この設定は電源を切ると保存されません。

コンピューターを接続する

本体裏面にあるUSB TO HOST端子とコンピューターをUSBケーブルで接続して、MIDIデータやオーディオデータのやり取りができます。

USB-MIDIを使う


■ MIDI (ミディ)とは

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) は、電子楽器やコンピューターの間で、演奏に関するさまざまな情報をやり取りするための世界共通の規格です。

■ コンピューターとの接続

Windows PC、MacのUSB A端子と本機のUSB TO HOST端子をUSBケーブルで接続します。

接続後のMIDIに関する設定は、「MIDI Clock」(26ページ)、「Local Control」(26ページ)を参照してください。

 初めてWindowsコンピューターに接続すると、自動的にOS内蔵のドライバーがインストールされます。WindowsOSの内蔵標準USB-MIDIドライバーは、同時に複数のアプリケーションから本機を使用することができません。複数のアプリケーションで本機を同時に使用する場合は、KORG USB-MIDIドライバーをインストールする必要があります。コルグ・ウェブサイト(www.korg.com)よりKORG USB-MIDIドライバーをダウンロードし、付属のドキュメントに従ってインストールしてください。

複数のアプリケーションから利用しない場合でも、より動作の安定が見込めるKORG USB-MIDIドライバーのインストールをお勧めします。

■ MIDIチャンネルについて

スタイル・モード、ソング・モードのユーザー・ソング選択時のMIDI Chは以下となります。

Ch01: Upper 1パート

Ch02: Upper 2パート

Ch03: Upper 3パート

Ch04: Lowerパート

Ch09: Bassパート

Ch10: Drumパート

Ch11: Percussionパート


Ch12～16: Other Parts

Note: SMF再生時は、そのファイルの設定に依存します。

USB-AUDIOを使う

■ コンピューターとの接続

1. 本機とコンピューターの音量を最小にします。
2. USBケーブルを使って、リア・パネルのUSB TO HOST端子にコンピューターを接続します。
3. コンピューターでオーディオを再生し、ボリュームを少し上げます。本機のボリュームを上げるとスピーカーから音が鳴ります。
4. 再生音に合わせて鍵盤を弾きながら、コンピューターのボリュームを上げ、音量バランスを調節します。

 コンピューターに接続するときは、設定によっては大きな音が発生するため、コンピューター側の音量を調整してください。


付録

ソフトウェアのバージョンの確認

1. [シフト]ボタンを押しながら電源ボタンを押します。
XE20のオープニング画面の後に、ソフトウェアのバージョンNo.が表示されます。
2. 電源を切って、もう一度入れなおします。

工場出荷時の状態に戻す

本機の設定を、工場出荷時の状態に戻します。
この操作では、セット・リスト、ユーザー・ソングおよびセッティング機能の設定を初期化(リセット)します。そのため、ユーザー・ソングや作成したセット・リストは上書きされて消えてしまいます。ユーザー・ソングやセット・リストを残しておきたい場合は、あらかじめメディア機能でUSBメモリーに保存してください(29ページの「SetListBackUp」、29ページの「Song Convert」参照)。

 初期化中は本機の電源を切らないでください。初期化に失敗して本機が使用できなくなる可能性があります。

1. 電源を切ります。
2. [シフト]ボタンとセット・リスト・セクションのバンク/ライト・ボタンを押しながら、電源ボタンを押します。
“FactoryPreload”と表示され、スタイル/ソング・セクションのスタート/ストップ・ボタンが点滅します。
3. ダイヤルを回して“Yes”を選択し、スタイル/ソング・セクションのスタート/ストップ・ボタンを押します。
初期化が始まります。
工場出荷時の設定に戻ると、ディスプレイに“Completed”と表示されます。
4. 電源を切って、もう一度入れなおします。

エクスプレッション・ペダルのキャリブレーション

フット・コントローラー端子に接続したエクスプレッション・ペダル(EXP-2等)のキャリブレーションを行い、ペダルの可変範囲を設定します。

1. 電源を切った状態で、エクスプレッション・ペダルを接続します。
2. セット・リスト・セクションの「1」を押しながら、電源ボタンを押します。
ディスプレイに“Pedal Calib.”と表示され、スタイル/ソング・セクションのスタート/ストップ・ボタンが点滅します。
3. スタイル/ソング・セクションのスタート/ストップ・ボタンを押します。
ディスプレイに“Measuring Min”と表示されます。
4. ペダルを手前に戻してから、足を離します。
ディスプレイに値が表示されます。
5. スタート/ストップ・ボタンを押します。
ディスプレイに“Measuring Max”と表示されます。

6. ペダルを完全に踏み込んでから、足を離します。
ディスプレイに値が表示されます。
7. スタート/ストップ・ボタンを押します。
キャリブレーションが終了し、ディスプレイに“Completed”と表示されます。
8. 電源を切って、もう一度入れなおします。
ペダルを操作して正しく動作しているかどうかを確かめてください。動作が正しくない場合は、再度操作1から行います。

故障とお思いになる前に

動作がおかしいと思ったときは、以下の項目を確認してください。

電源が入らない

- ACアダプターのプラグがコンセントに接続されていますか？
- 電源ボタンを押しましたか？

電源が切れない

- 電源ボタンを長く押し了吗？

電源が切れてしまう

- オート・パワー・オフ機能が有効になっていませんか？

鍵盤を弾いても本機のスピーカーから音が出ない

- 本機のボリュームは上がっていますか？
- ヘッドホンが接続されていませんか？
本機にヘッドホンが接続されているときはスピーカーから音が出ません。
- 各パート・ボタンがミュートされていませんか？
- フット・コントローラー端子に接続したペダルでのボリュームが下がっていませんか？
- 弾いた鍵盤の一部の音が出ない場合は、最大同時発音数を超過していませんか？
- セッティング機能のローカル・コントロールの設定が“On”になっていませんか？
- スピーカーがオフに設定されていませんか？
セッティング機能のスピーカーの設定が“On”になっていませんか？
- 鍵盤パートがミュートされていませんか？

音が止まらない

- ペダルの機能や極性は、正しく設定されていますか？

音が二重に発音する

- DAW等を使用中の場合、セッティング機能のローカル・コントロール設定が“Off”になっていませんか？

接続した外部音響機器等の音が歪む

- 接続したパワー・モニター・スピーカー等で過入力になっていませんか？
本機のボリューム・ノブを調節してください。

ピッチがずれる

- トランスポーズ機能が正しく設定されていますか？
- セッティング機能の“Master Tuning”、プログラムのOctaveやTuneのエディット・パラメーターが正しく設定されていますか？
- スケールは正しく設定されていますか？
セッティング機能の「UpperScaleTyp」(26ページ)、「StyleScaleTyp」(26ページ)の設定を確認してください。

ノイズが発生する

- パートの音量を上げた場合に、デジタル信号処理で過大レベルになり、歪み音やノイズ音が発生する場合があります。これは故障ではありません。
各パート・ボタンで音量を下げて調節してください。
- エフェクトによっては、過入力による歪み音やノイズ音が発生する場合があります。これは故障ではありません。
- 電源環境等によっては、グラウンドのループ等によるノイズが発生する場合があります。

フット・コントローラー端子に接続したペダル・スイッチ、エクスプレッション・ペダルの反応がおかしい

- ペダルの機能や極性は、正しく設定されていますか？
セッティング機能の「Pedal Function」(26ページ)、「Pedal Polarity」(26ページ)の設定を確認してください。
- エクスプレッション・ペダルの可変範囲は、正しく設定されていますか？
「エクスプレッション・ペダルのキャリブレーション」(32ページ)を行ってください。


ユーザー・ソングが録音できない

- ユーザー・ソングの録音は最大999曲です。
ユーザー・ソングを消去してください(24ページの「ユーザー・ソングの削除」参照)。

コンピューターとのMIDI送受信が正しく応答しない

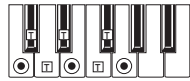
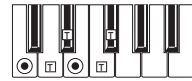
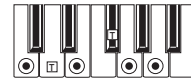























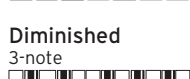
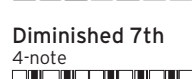
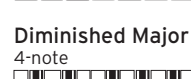
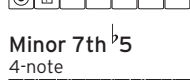
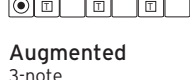
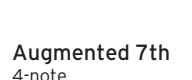

- USBケーブルがUSB TO HOST端子に正しく接続されていますか？

メディア機能に入れない

- USBメモリーが正しく接続されていますか？
正しく接続されているときは、ディスプレイに、 が表示されます。

コード認識一覧



本機のコード認識で“Fingered2”を選択したときに認識される、最も主要なコードは、以下のとおりです。


<p>Major 3-note</p> 	<p>2-note</p> 	<p>Major 6th 4-note</p> 	<p>2-note</p> 
<p>Major 7th 4-note</p> 	<p>3-note</p> 	<p>2-note</p> 	
<p>Sus 3-note</p> 	<p>2-note</p> 	<p>Sus 2 3-note</p> 	
<p>Dominant 7th 4-note</p> 	<p>3-note</p> 	<p>2-note</p> 	
<p>Dominant 7th Sus 4 4-note</p> 	<p>3-note</p> 	<p>Flat 5th 3-note</p> 	
<p>Dominant 7th b5 4-note</p> 	<p>Major 7th b5 4-note</p> 	<p>Major 7th Sus 4 4-note</p> 	
<p>Minor 3-note</p> 	<p>2-note</p> 	<p>Minor 6th 4-note</p> 	
<p>Minor 7th 4-note</p> 	<p>3-note</p> 	<p>Minor-Major 7th 4-note</p> 	<p>3-note</p> 
<p>Diminished 3-note</p> 	<p>Diminished 7th 4-note</p> 	<p>Diminished Major 7th 4-note</p> 	
<p>Minor 7th b5 4-note</p> 			
<p>Augmented 3-note</p> 	<p>Augmented 7th 4-note</p> 	<p>Augmented Major 7th 4-note</p> 	

● = コードの構成音

□ = テンションとして使用可

仕様

機能	XE20/XE20SP	
鍵盤	NH(ナチュラル・ウェイテッド・ハンマー・アクション)鍵盤 88鍵(A0 ~ C8)	
	タッチ・コント ロール	ソフト(軽め)、ミディアム(標準)、 ハード(重め)、フィックス(固定)
音源	ステレオPCM音源	
最大同時発音数	184ボイス (ジャーマン・ピアノ、イタリー・ピアノ音色は合 わせて最大120ボイス、その他の音色は合わせて 最大64ボイス)	
サウンド	705以上のサウンド、41のドラム・キット(GM互 換のサウンド・セット含む)	
エフェクト	伴奏パート： 2ステレオ・デジタル・マルチ・エフェクト 鍵盤パート： 2ステレオ・デジタル・マルチ・エフェクト	
スタイル	280プリセット以上	
	2イントロ、4バリエーション、2フィル、1ブレイク、 2エンディング、シンクロ・スタート/ストップ、タッ プ・テンポ	
ミュージック・ スタイル	64以上	
デモ・ソング	21曲	
オーディオ・ブ レーヤー	MP3 (44.1kHz) WAV (44.1kHz)	
シーケンサー	録音	リアルタイム録音(スタイル・ モード)、最大999曲(約100,000 音符)、12トラック(4鍵盤パート +8自動伴奏パート)、オリジナル ・フォーマット(SMF0変換出 力機能あり)
	再生	ソング・プレイ(再生しながらの 鍵盤演奏)に対応、SMF(スタン ダードMIDIファイル)フォーマッ ト0または1
スケール(音律)	9種類	
コントロール	電源ボタン、ボリューム・ノブ、ピアノ1/2 ボタン、 スタイル・セット・ボタン、リバーブ・ボタン、ス タイル/[ミュージック・スタイル]ボタン、ソング/ [デモ・ソング]ボタン、パート・ミュート/[サウンド・ セレクト]セクションの各ボタン、セッティング/ [メディア]ボタン、[シフト]ボタン、アンサンブル・ ボタン、スプリット・ボタン、  (メトロノーム) / [ビート・セレクト]ボタン、タップ・テンポ/[テンポ・ ロック]ボタン、トランスポーズ b、#/ [オクター ブ -、+]ボタン、ダイヤル、カテゴリー・ボタン  、+ボタン、-ボタン、スタイル/ソング・セクショ ンの各ボタン、セット・リスト・セクションの各ボ タン	
セット・リスト	10バンク x 4	
メトロノーム	テンポ、拍子、音量	
テンポ	30 ~ 240	
トランスポーズ	C(-12) ~ C(0) ~ C(+12)	
チューニング	427.5 ~ 452.9Hz	

機能	XE20/XE20SP	
入出力端子	フット・コント ローラー端子	6.3mmフォーン・ジャック
	オーディオ・ イン端子	3.5mmステレオ・ミニフォーン・ ジャック
	オーディオ・アウト L/MONO、R端子	6.3mmフォーン・ジャック(不平 衡)
	ヘッドホン 端子	3.5mmステレオ・ミニフォーン・ ジャック
	USB TO DEVICE端子	USB Type-A : USBメモリー、コ ントローラー接続用
	USB TO HOST端子	USB Type-B : コンピューター 接続用
ペダル端子	XE20付属ダンパー・ペダル、 XE20SP付属ペダル・ユニット、 別売ペダル・ユニットPU-2接続 用	
スピーカー・シ ステム	アンプ : 18W x 2	
	スピーカー : 57mm x 126mm 楕円スピーカー x 2 (バスレフ・ボックス方式)	
	スピーカー EQ : 8タイプ	
MIDI	USB MIDI	
ディスプレイ	バックライト式カスタムLCD	
電源	ACアダプター (DC19V、 )	
消費電力	13W	
外形寸法(幅 x 奥行き x 高さ)	XE20 : 1,312 x 336 x 118mm(譜面立て含まず) XE20SP : 1,312 x 336 x 751mm(譜面立て含まず)	
質量	XE20 : 11.4kg(譜面立て含まず) XE20SP : 21kg(譜面立て含まず)	
付属品	クイック・スタート・ガイド、ACアダプター、譜面 立て、ダンパー・ペダル(XE20のみ)、ペダル・ユ ニット付き専用スタンド(XE20SPのみ)	
アクセサリ (別売)	DS-1Hダンパー・ペダル(ハーフ・ペダル機能は、 ジャーマン・ピアノ、イタリー・ピアノ音色のみ対応) PU-2ペダル・ユニット(ダンパーのハーフ・ペダ ル機能とソステヌートは、ジャーマン・ピアノ 、イタリー・ピアノ音色のみ対応) PS-1ペダル・スイッチ PS-3ペダル・スイッチ EXP-2フット・コントローラー	

※ 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

MIDIインプリメンテーション・チャート

ファンクション…		送 信	受 信	備 考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 ×	1-16 ×	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	×	3 ×	
		×	×	
		*****	×	
ノート ナンバー	音域	0-127 *****	0-127 0-127	*4
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9n, V=1-127 × 8n, V=64	○ 9n, V=1-127 ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	○ ○	× ○	*1 *1
ピッチ・ベンド		○	○	
コントロール チェンジ	0, 32	○	○	バンク・セレクト (MSB, LSB)
	1, 2	○	○	モジュレーション *1
	64	○	○	ダンパー
	6	○	○	データ・エンタリー (MSB) *1
	7, 11	○	○	ボリューム、エクスプレッション
	10, 91, 93	○	○	パンポット、エフェクト1・2センド *1
	71, 72, 73	○	○	ハーモニー・コンテンツ、EGタイム (リリース、アタック) *1
	74, 75	○	○	ブライトネス、ディケイ・タイム *1
	76, 77, 78	○	○	ビブラート・レート、デプス、ディレイ *1
	98, 99	○	○	NRPN (LSB, MSB) *1
100, 101	○	○	RPN (LSB, MSB) *1	
120, 121	○	○	オール・サウンド・オフ、リセット・オール・コントローラー *1	
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ 0-127 *****	○ 0-127 0-127	
エクスクルーシブ		○	○	*2
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	×	×	
		×	×	
		×	×	
リアル タイム	クロック コマンド	×	○ ×	*3
その他	ローカル ON/OFF	○	×	*1
	オール・ノート・オフ	○	○ (123-127)	*1
	アクティブ・センシング	×	×	
	リセット	×	×	
備考				
*1: シーケンサ・データ送信可能。 *2: インクワイアリーとマスター・ボリュームの設定を含む。 *3: MIDI Clock設定がExternal のときのみ受信する。 *4: プログラムにより全音域を発音できない場合がある。				

モード1: オムニ・オン、ポリ
モード3: オムニ・オフ、ポリ

モード2: オムニ・オン、モノ
モード4: オムニ・オフ、モノ

○: あり
×: なし

MIDIインプリメンテーションの配布については、コルグ・ウェブサイトをご確認ください。

株式会社コルグ

本社：〒206-0812 東京都稲城市矢野口 4015-2

©2020 KORG INC.

www.korg.com
Published 04/2021